

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	慶應義塾大学
設置者名	慶應義塾

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
文学部		夜・通信			133	133	13	
		夜・通信	28		14	42	13	
経済学部		夜・通信			46	46	13	
		夜・通信	28		12	40	13	
法学部		夜・通信			180	180	13	
		夜・通信	28		20	48	13	
商学部		夜・通信			40	40	13	
医学部		夜・通信			73	73	19	
理工学部		夜・通信			158	158	13	
総合政策学部		夜・通信			26	26	13	
環境情報学部		夜・通信			26	26	13	
看護医療学部		夜・通信			233	233	13	
薬学部	薬学科	夜・通信			242.5	242.5	19	
	薬科学科	夜・通信			106	106	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

通学課程：慶應義塾 Web サイト「在学生」→「塾生サイト」→「所属キャンパス」→「所属学部」→「時間割・シラバス・履修」→「履修案内・講義要綱・時間割」ページから、pdf の「実務経験のある教員等による授業科目一覧表」にリンクを張り公表している。

例) 三田キャンパス <https://www.students.keio.ac.jp/mt/class/registration/>

通信教育課程：慶應義塾通信教育課程 Web サイト「学部」→「講義要綱(シラバス)」→「[2020]以降はこちら」からアクセスできる各科目のシラバス内に実務経験のある教員等による授業情報を公表している。 <https://slbs.tsushin.keio.ac.jp/>

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	慶應義塾大学
設置者名	慶應義塾

1. 理事（役員）名簿の公表方法

慶應義塾 web サイト「理事・監事・会計監査人一覧」で公表
<https://www.keio.ac.jp/ja/about/learn-more/data/organization/leadership-2.html>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	株式会社/相談役	2025. 5. 27 ～ 4年以内に終了 する会計年度の うち最終のもの に関する定時評 議員会の終結の 時まで	学務重要事項、資産 の取得・処分、事業 計画、決算等のチェ ックおよび決裁
非常勤	株式会社/特別顧問	2025. 5. 27 ～ 4年以内に終了 する会計年度の うち最終のもの に関する定時評 議員会の終結の 時まで	学務重要事項、資産 の取得・処分、事業 計画、決算等のチェ ックおよび決裁
(備考)			

様式第 2 号の 3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	慶應義塾大学
設置者名	慶應義塾

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
通学課程： ・例年 10 月頃に次年度の授業担当者が決定するので、11 月にシラバスの作成を依頼。翌年 1 月から 3 月にかけて編集し、授業科目の内容・目的・方法・授業計画ならびに成績評価方法などについて『シラバス（講義要綱）』として 3 月中旬を目途に公表している。 ・閲覧方法 ① 在学生は Web の塾生サイトで ID とパスワードでログインし閲覧する。「塾生サイト」→「所属キャンパス」→「所属学部」→「時間割・シラバス・履修」→「履修案内・講義要綱・時間割」ページ 例) 三田キャンパス https://www.students.keio.ac.jp/mt/class/registration/ ②一般向けには、表示項目の一部を除き公表している。 https://gslbs.keio.jp/pub-syllabus/search 通信教育課程： ・例年、11 月に次年度の授業担当者が決定し、12 月にシラバスの作成を依頼。翌年 1 月から 2 月にかけて編集し、「講義要綱（シラバス）」として 3 月上旬に公表している。 ・閲覧方法 一般および在学生向けに、慶應義塾通信教育課程 Web サイト (https://slbs.tsushin.keio.ac.jp/) で公開している。	
授業計画書の公表方法	
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

通学課程：

- ・ 授業科目の評価は試験やレポートの提出を課し、成績は、S・A・B・C・Dの5段階評価を持って示し、S・A・B・Cを合格、Dを不合格とし、合格した科目には所定の単位を与えている。また、学位認定については、履修科目で得た単位数に卒業論文の審査などにより取得した単位を加え、各学部学則に定める卒業必要単位数の充足をもって、各学部教授会が認定している。

通信教育課程：

- ・ 通信授業（テキスト）
学生は各科目のテキストを学習し、レポートを提出した学生は指定の時期に科目試験を受験する。科目試験の成績は、S・A・B・C・Dの5段階評価をもって示し、S・A・B・Cを合格、Dを不合格とし、合格した科目には所定の単位を与える。
- ・ 面接授業（スクーリング）
学生は履修申告した面接授業に出席し、履修した科目は指定の時期にスクーリング試験を受験する。スクーリングの成績は、S・A・B・C・Dの5段階評価をもって示し、S・A・B・Cを合格、Dを不合格とし、合格した科目には所定の単位を与える。
- ・ メディア授業（E-スクーリング）
学生はインターネット等を用いて、音声付き動画を定められた期間に視聴する。レポートの提出、小テストの受験、科目試験の受験等による総合評価とする。成績はS・A・B・C・Dの5段階評価をもって示し、S・A・B・Cを合格、Dを不合格とし、合格した科目には所定の単位を与える。
- ・ 卒業試験
卒業試験は卒業論文審査と総合面接試問によるものとする。学生は必要な単位を修得した上で、卒業論文を指導教員に提出し、指導教員の審査を受ける。指導教員から許可された学生は、指定の日時に主査・副査による総合面接試問を受け、その結果を教授会に諮る。卒業論文の成績はS・A・B・Cを合格、Dを不合格とし、合格した場合には所定の単位を与える。

3．成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

通学課程：

- ・2017年度からGPA制度を導入し、5段階評価の評語とその基準点数およびGPAの算出方法、対象となる科目および併せて導入した履修登録取消制度を、学生向けのWebサイトに掲載している。

「塾生サイト」→「所属キャンパス」→「所属学部」→（項目）「時間割・シラバス・履修」と（項目）「学業成績表」

例）三田キャンパス 文学部

<https://www.students.keio.ac.jp/mt/flet/>

- ・GPA算出式

Grade Point S:4.0, A:3.0, B:2.0, C:1.0, D:0.0

$$\frac{(\text{Grade Points} \times \text{単位数}) \text{の総和}}{\text{総履修単位数}}$$

通信教育課程：

2017年度からGPA制度を導入し、5段階評価のグレード別のポイント、GPAの算出方法、対象となる科目および併せて導入した履修登録取消制度を、全学生に配布する『塾生ガイド』に掲載している。

- ・GPA算出式

各科目の5段階評価を4.0から0.0までのGP (Grade Point) (S:4.0、A:3.0、B:2.0、C:1.0、D:0.0) に置き換えて科目単位数を掛け、その総和を科目単位数の合計で割った平均点（小数点二桁以下四捨五入）で、成績を数値で表す。

- ・適用される学生

入学年度が2017年度以降の正科生。

- ・対象科目

通信授業（レポート合格かつ2017年度以降に科目試験を受験した科目）

面接授業（体育スクーリング、実験スクーリング含む）

メディア授業（E-スクーリング）、放送授業（2022年度まで開講）

卒業試験（卒業論文審査、総合面接試問）の結果

- ・履修登録取消制度

定められた履修登録取消期間に手続を行った場合、取り消した科目はGPAの対象とはならない。

客観的な指標の
算出方法の公表方法

通学課程：

- ・「塾生サイト」→「所属キャンパス」→「所属学部」→「学業成績表」→「成績発表」

<https://www.students.keio.ac.jp/com/class/grade/>

通信教育課程：

『塾生ガイド』に掲載している。

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 通学課程： - 卒業の認定方針は、学部毎に学位授与に関する方針（ディプロマポリシー）を定め、Web サイトや履修案内等にて公表している。卒業要件（履修科目や単位数など）は、学生向けの履修案内（Web サイトで PDF でも公表）、学部学則等で学生に公表している。 通信教育課程： 各学部のディプロマポリシーは以下のとおり。 - 卒業の認定方針は学部毎に学位授与に関する方針（ディプロマポリシー）を定め、Web サイトにて公表している。卒業要件（履修科目や卒業単位数など）は『塾生ガイド』にて学生に公表している。	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	通学課程： 慶應義塾Webサイト「慶應義塾について」→「情報公開」→「3つの方針（学位授与・教育課程・入学者受入）」で公表している。 https://www.keio.ac.jp/ja/about/data/policies-faculty/ 通信教育課程： 以下の Web サイトにて公表している。 文： https://www.tsushin.keio.ac.jp/faculty/flet/policy.html 経済： https://www.tsushin.keio.ac.jp/faculty/econ/policy.html 法： https://www.tsushin.keio.ac.jp/faculty/law/policy.html

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

公表方法：	
-------	--

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 文学部
教育研究上の目的 (公表方法：慶應義塾 web「情報公開」ページにて公表している。 https://www.keio.ac.jp/ja/about/assets/data/purpose-undergraduate.pdf)
(概要) 本塾建学の精神に則り、哲学、史学、文学、図書館・情報学、人間関係学にかかわる理論と応用を研究教授し、文化の創造と社会の発展に資する幅広い教養と深い学識および知的・倫理的・実践的能力を培うことを目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：慶應義塾 web「各学部における 3 つの方針」ページにて公表している。 https://www.keio.ac.jp/ja/about/data/policies-faculty/)
(概要) 文学部（人文社会学科）は、慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を前提として、「文（ことば）」にかかわる広大な領域を対象として、創立者福澤諭吉の「実学の精神」に基づき、実証的に真理を解明し問題を解決してゆく科学的な姿勢と知識および能力を培うことを目標とする。加えて、総合教育科目、必修語学科目および専門教育科目（各専攻）に関するそれぞれの方針のもとで、所定の要件を満たしたと認められる学生に対して、第 2 学年進級時に定められる所属専攻に応じて、学士（哲学）、学士（美学）、学士（史学）、学士（文学）、学士（図書館・情報学）、学士（人間関係学）のいずれかの学位を授与する。 資質・能力目標 (1) 多様な文化や地域につながる幅広い教養を持ち、それを日本語や外国語で適切に説明し、コミュニケーションを行う力。 (2) 人文社会科学の学術的な知識と、情報収集能力を身につけたうえで、論理的な思考を行い、効果的なプレゼンテーションを行う力。 (3) 社会の中で人文社会科学を学ぶことの意義を自覚し、自ら設定した目標の達成や社会問題の解決を、ふさわしい方法で行う力。 (4) 学修の最終成果である卒業論文を執筆し、専門的な領域において、先人の成果をふまえた新たな展望を提示する力。あるいは、卒業試験において、同等の内容を提示する力。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：慶應義塾 web「各学部における 3 つの方針」ページにて公表している。 https://www.keio.ac.jp/ja/about/data/policies-faculty/)
(概要) 文学部（人文社会学科）は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を実施するために、総合教育科目、必修語学科目および専門教育科目から構成される教育課程（カリキュラム）を編成する。 この教育課程の編成のもと、以下の教育法を組み合わせ教育を実施する。 (1) 基礎的かつ包括的な知識と問題意識の獲得を目指し、人文社会科学に加え、自然科学や学際的な分野も包含する多様な科目群を設置する。 (2) 自ら課題を見出し、その解決を目指す能力を身につけるため、講義科目、演習科目、実験科目、フィールドワークなどにおいて、学生が主体となる能動的な授業を拡充する。

(3) 知的探究への動機づけと実践力を育成するため、専門的な知識や技能を習得する科目群と学際的な科目群を共に履修する機会を設ける。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：慶應義塾 web「各学部における 3 つの方針」ページにて公表している。 https://www.keio.ac.jp/ja/about/data/policies-faculty/
(概要) 求める学生像 (1) 慶應義塾の精神に対する十分な理解、および学問に対する意欲と向上心を持つ。 (2) 先人による古典類から最新の研究成果が書かれた論文に至るまでの諸文献を読み込み、理解するための基礎となる語学力（日本語、および英語・フランス語・ドイツ語）を身につけている。 (3) 与えられた課題に対して論理的に思考し、それに対する自分の考えを正確かつ十分に記述する能力を有する。 (4) 現在の社会や文化の成り立ちを理解するための基礎となる歴史的な知識（日本史または世界史）を持つ。 (5) 文学部が設置している専攻（哲学、倫理学、美学美術史学、日本史学、東洋史学、西洋史学、民族学考古学、国文学、中国文学、英米文学、独文学、仏文学、図書館・情報学、社会学、心理学、教育学、人間科学）が対象とするいずれかの学問に対する関心・好奇心を有する。 選抜の基本方針 このような入学者を幅広く受け入れるため、(1)一般選抜、(2)自主応募制による推薦入学者選考、(3)外国人留学生対象入学試験により選抜を実施する。 (1)一般選抜 外国語・地理歴史・小論文の三科目の試験による選抜であり、文学部にふさわしい高い学力を要求する。 (2)自主応募制による推薦入学者選考 高等学校で一定の評点に達していることを条件に、在学中の活動実践や社会的活動をも加味した総合的な考査によって選抜する。 (3)外国人留学生対象入学試験 学業成績と勉学意欲を勘案した選抜を行う。

学部等名 経済学部
教育研究上の目的 (公表方法：慶應義塾web「情報公開」ページにて公表している。 https://www.keio.ac.jp/ja/about/assets/data/purpose-undergraduate.pdf)
(概要) 経済学部教育の目的は、慶應義塾の建学の精神を踏まえつつ、各界で指導的役割を担う次世代の人材を養成することである。
卒業又は修了認定に関する方針 (公表方法：慶應義塾web「各学部における3つの方針」ページにて公表している。 https://www.keio.ac.jp/ja/about/data/policies-faculty/

(概要) 慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を前提として、一般教養、語学ならびに経済学全般に関する広い知識・理解力と経済学の特定専門分野に関する深い考察力を兼ね備えた者を育成することを目標とする。加えて、教育課程において定める所定の要件を満たした学生に対し、学士（経済学）の学位を授与する。経済学を一つの軸とする教養を備え、変化する社会を適切に認識し、日本社会をリードすると同時に世界で活躍できる能力を証するものとして学位を授与することを方針としている。 資質・能力目標 資質・能力目標（1）：一般教養、語学ならびに経済学全般に関する広い知識・理解力 資質・能力目標（2）：経済学の特定専門分野に関する深い考察力 資質・能力目標（3）：経済学を一つの軸とする教養を備え、変化する社会を適切に認識し、日本社会をリードすると同時に世界で活躍できる能力
教育課程の編成及び実施に関する方針 （公表方法：慶應義塾web「各学部における3つの方針」ページにて公表している。 https://www.keio.ac.jp/ja/about/data/policies-faculty/
(概要) 「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる資質・能力を養成するために、総合教育科目、外国語科目、経済学に関する基礎教育科目・専門教育科目などを、バランス良く各学年に配置し、学年制を取る。4年間で126単位以上の取得を課す。 経済学部第1・2学年の学生は、一般教養と経済学の基礎を学ぶ。そのカリキュラムには、「学びの入口」を二つ用意している。すなわち、履修タイプA（経済理論・数学先習型）と履修タイプB（経済実態・歴史先習型）である。履修タイプAは一般的な前提から出発して論理的に答えを導く演繹的手法を、履修タイプBは経験的事実の教訓に学びつつ事実の積み重ねから知見を獲得する帰納的手法を、それぞれ中心的に学ぶカリキュラムである。いずれのカリキュラムも、第3・4学年に三田で、より専門的な科目を履修する準備段階となる。1・2年時の自由研究セミナー、教養系を中心としたセミナー（研究プロジェクト）、経済学専門のセミナー（研究会）、英語による経済学履修コース（Professional Career Program）など少人数教育などを組み合わせて教育を実施する。さらに、大学全体の国際交換協定とは別に、学部独自の交換協定を締結し、在学中における海外大学での単位取得を奨励している。
入学者の受入れに関する方針 （公表方法：慶應義塾web「各学部における3つの方針」ページにて公表している。 https://www.keio.ac.jp/ja/about/data/policies-faculty/
(概要) 求める学生像 (1) 社会に積極的に関与する強い意志を持ち、自らの智力によって変化する社会を把握しようという気概をもった人間を求める。 (2) 学問的基礎に基づいて厳密に考える能力にすぐれると同時に、バランス感覚に富み、多様なものの見方を尊重できる人材となりえること。 (3) 知性により社会の指導的役割を担える潜在力を備えること。 選抜の基本方針 このような入学者を幅広く受け入れるため、(1) 一般選抜、(2) PEARL入試、

(3) 帰国生入試、(4) 留学生入試、(5) 指定校推薦入試により選抜を実施する。 (1) 一般選抜 筆記試験により、選抜を行う。A方式（外国語、数学）、B方式（外国語、地理歴史）のどちらで受験するか、出願時に選択する。 (2) PEARL入試 提出書類に基づき、総合的な選考を行う。 (3) 帰国生入試 第1次選考では、提出書類に基づき、総合的な選考を行う。第2次選考では、参考小論文および面接（学力・人物について）により選考を行う。 (4) 留学生入試 提出書類に基づき、総合的な選考を行う。 (5) 指定校推薦入試 指定校からの学校長推薦と志願者による提出書類に基づき選考を行う。
--

学部等名 法学部
教育研究上の目的 (公表方法：慶應義塾web「情報公開」ページにて公表している。 https://www.keio.ac.jp/ja/about/assets/data/purpose-undergraduate.pdf) (概要) 法学部は、本塾建学の精神に則り、国際的な視野に立ちつつ新しい社会を創造し未来を先導する人材を育成すべく、法学および政治学の専門分野のみならず幅広い教養について教授研究することを目的とする。 法律学科 法学部法律学科は、社会現象を法的な視点から捉え、柔軟かつ的確な判断のできる法的思考力を有する人材の育成を目的とする。 政治学科 法学部政治学科は、現代社会および歴史上の諸問題を政治学的な視点からの的確に分析し、創造的かつ総合的に判断する能力を有する人材の育成を目的とする。 卒業又は修了認定に関する方針 (公表方法：慶應義塾web「各学部における3つの方針」ページにて公表している。 https://www.keio.ac.jp/ja/about/data/policies-faculty/) (概要) 法学部法律学科は、慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を前提として、社会現象を法的な視点からとらえ、柔軟かつ的確に判断し、論理的に思考することのできる能力を涵養し、社会のさまざまな場面において主体的・積極的に活躍できる人材を育成することを目標としている。その目標を高い次元で達成して以下のような知識・姿勢・能力を獲得し、加えて、教育課程において定める所定の要件を満たした学生に対し、学士（法学）の学位を授与する。 資質・能力目標 (1) 専門分野の知識と技能の修得 法律学の専門知識を修得し、さまざまな社会事象・問題を精確かつ多面的に捉え、論理的に思考し、問題解決の方向性を示すことができる。 (2) 幅広い領域の知見の修得 法律学のみならず、人文科学・社会科学・自然科学の広範な知見をもって興味関心の幅をひろげ、学際的・発展的・創造的な思考を展開させることができる。 (3) 国際的に活躍できる語学能力・コミュニケーション能力の修得 法律学の専門知識に加え、高度の語学能力・表現力をもって、自身の意見を発信

し、多彩な人・社会と意見交換することを通じて、活躍の領域を国際的にひろげることができる。

法学部政治学科は、慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を前提として、将来の政治家や公務員を育てることにとどまらず、個別の行為や事象を社会全体との関連で考察し、適切に位置付ける能力の涵養を目標とする。その目標を高い次元で達成して以下のような知識・姿勢・能力を獲得し、加えて、教育課程において定める所定の要件を満たした学生に対し、学士（法学）の学位を授与する。

資質・能力目標

(1) 専門分野の知識と技能の修得

政治学の専門知識を修得し、現代および歴史上のさまざまな社会事象・問題を政治学的見地からの的確に分析し、創造的かつ総合的に判断することができる。

(2) 幅広い領域の知見の修得

政治学のみならず、人文科学・社会科学・自然科学の広範な知見をもって興味関心の幅をひろげ、学際的・発展的・創造的な思考を展開させることができる。

(3) 国際的に活躍できる語学能力・コミュニケーション能力の修得

政治学の専門知識に加え、高度の語学能力・表現力をもって、自身の意見を発信し、多彩な人・社会と意見交換することを通じて、活躍の領域を国際的にひろげることができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針

（公表方法：慶應義塾web「各学部における3つの方針」ページにて公表している。
<https://www.keio.ac.jp/ja/about/data/policies-faculty/>）

（概要）

法学部法律学科（学士：法学）は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる資質・能力を養成するために、外国語科目と人文・自然・社会科学科目等から成る総合教育科目、及び、導入・基幹・展開の3つの段階に分類された法律学専門科目の双方の教育課程を体系的に編成する。

この教育課程の編成のもと、法律学の基礎理論や実定法について基礎的知見と応用する手法を学ぶ講義形式の科目と、ソクラテスメソッドなどの教育方法を用いた主体的な双方向・多方向のやりとりを通じて、読解力や法的思考力を高める演習形式の科目とを組み合わせ教育を実施する。さらに、法曹をはじめとする法律のプロフェッショナルとして活躍するための素養や心得を実践的に学ぶことができるよう、実務家が担当する演習科目も設置する。

法学部政治学科（学士：法学）は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる資質・能力を養成するために、外国語科目と人文・自然・社会科学科目等から成る総合教育科目、及び、基礎科目・系列科目の2つから成る政治学専門科目の双方の教育課程を体系的に編成する。

この教育課程の編成のもと、大人数での講義、研究報告や文献講読を主体とする少人数の演習形式の授業、そうした演習形式の授業を中心に、アクティブラーニング、フィールドワーク、PBLなどの教育法を組み合わせ教育を実施する。

入学者の受入れに関する方針

（公表方法：慶應義塾web「各学部における3つの方針」ページにて公表している。
<https://www.keio.ac.jp/ja/about/data/policies-faculty/>）

（概要）

法学部の求める学生像は以下のとおりである。

(1) 慶應義塾の建学の精神と法学部の教育目標をよく理解し、そのカリキュラムのもとで主体的・積極的に学習に取り組む姿勢を有している人

(2) 社会のさまざまな事象を法律学・政治学的な視点から捉え、分析し、判断するための基礎的知見、論理的思考力、表現力を有している人

(3) 国際的な視野に立ち、多様な価値観を受容しつつ、新しい社会を創造し先導する気概を有している人

このような入学者を幅広く受け入れるため、(1)一般選抜、(2)帰国生入試、(3)留学生入試、(4)指定高校による推薦入試、(5)自己推薦形式でのFIT入試により選抜を実施する。

(1) 一般選抜

外国語（英語）、地歴（日本史・世界史）、小論文の3科目につき筆記試験を実施し、法学部の教育において必要とされる基礎的知識、言語運用能力、論理的思考力、表現力を身につけているかを評価する。

(2) 帰国生入試

海外で教育を受けた学歴背景を尊重し、多様性のある学生を受け入れるため、論述試験によって、与えられた課題について理解し、発想する能力や、文章の構成力、表現力を評価するとともに、提出書類や面接によって、語学能力や高校までの学習成果、学習意欲を含め、人物を多面的に評価する。

(3) 留学生入試

海外で教育を受けた学歴背景を尊重し、多様性のある留学生を受け入れるため、日本留学試験（EJU）の結果や小論文を含む提出書類により、法学部の教育において必要とされる日本語能力、基礎的知識・論理的思考能力を身につけているか、高い学習意欲を有しているかを総合的に評価する。

(4) 指定高校による推薦入試

指定校からの学校長推薦に基づく推薦入学制度であり、学業はもとより、それ以外においても優れた実績を持つ、個性豊かな人物であることを評価する。

(5) 自己推薦形式でのFIT入試

この学生を「教えたい」という法学部教員と、慶應義塾大学法学部で「学びたい」という学生の良い相性（fit）を実現しようとする入試制度である。FITとは、Flexible and Intelligent Thinkingの頭文字をとったものでもあり、主体性、社会性、想像力、コミュニケーション能力など、積極的に社会で活躍し、発信する能力を有しているかを、志望理由書ないし自己推薦書等の提出書類、論述試験、面接試験を通じて、多面的・総合的に、人物本位で評価する。

学部等名 商学部

教育研究上の目的

（公表方法：慶應義塾web「情報公開」ページにて公表している。

<https://www.keio.ac.jp/ja/about/assets/data/purpose-undergraduate.pdf>）

（概要）

商学部は、福澤諭吉の実学の精神を「商学」の分野において継承し、社会の変化に対応する形で発展させていくことを教育と研究の基本とする。教育においては、この基本を踏まえ、現実社会の抱える問題を自ら発見し、科学的思考と商学の専門知識を用いて解決案を提示し、実行する能力を養うことで、未来社会に貢献する人材を育てることを目的とする。

卒業又は修了認定に関する方針

（公表方法：慶應義塾web「各学部における3つの方針」ページにて公表している。

<https://www.keio.ac.jp/ja/about/data/policies-faculty/>）

(概要) 慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を前提として、商学部は、産業社会の現象についての理論的かつ実証的な観察・分析を通じて現代の社会が抱える問題を自らの力で発見し、解決案を提示し、実行するための能力、および高い倫理観と責任感を兼ね備え、産業社会の発展に貢献するリーダーとしての資質を身につけた人材を育てることを目標とする。加えて、教育課程において定める所定の要件を満たした学生に対し、学士（商学）の学位を授与する。 資質・能力目標 資質・能力目標（1）：問題発見力・解決案提案力・実行力 ・ 現代の産業社会がいかなる問題を抱えているのか、自らの力で考え、発見することができる。 ・ その問題をいかに解決していくことができるか、自らの力で考え、提案することができる。 ・ 自らの力で考え、提案した案を実行することができる。 資質・能力目標（2）：観察力・分析力 ・ 上記の問題発見・問題解決を実現するために、産業社会の現象についての理論的かつ実証的な観察・分析を遂行することができる。 資質・能力目標（3）：倫理観・責任感 ・ 上記の問題発見・問題解決を提案・実行する際、解決案の影響に関して、経済的側面とあわせて倫理的側面についても深慮することができる。 ・ 上記の問題発見・問題解決を提案・実行する際、責任をもってそれを貫徹するべく、組織を先導することができる。 資質・能力目標（4）：産業社会の発展に貢献できるリーダーとしての資質 ・ 問題発見力・解決案提案力・実行力を備え、将来的に産業社会の発展に対して率先して貢献することができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針 （公表方法：慶應義塾web「各学部における3つの方針」ページにて公表している。 https://www.keio.ac.jp/ja/about/data/policies-faculty/）
(概要) 商学部は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる資質・能力を養成するために、総合教育科目、外国語科目、基礎科目、専攻科目から構成される教育課程を体系的・有機的に編成する。 1 総合教育科目（自然科学系科目、人文・社会科学系科目、学際的・総合的科目、自主強化科目、体育系科目）は、社会における様々な問題に関心を持ち、自らの言葉で考えを世界に向けて伝えるための洞察力、情報発信力を養うために編成する。 2 外国語科目（英語、ドイツ語、中国語、フランス語、スペイン語）も、総合教育科目と同じく、社会における様々な問題に関心を持ち、自らの言葉で考えを世界に向けて伝えるための洞察力、情報発信力を養うために編成する。 3 基礎科目（基礎必修科目、基礎選択科目）は、「商学」を現代の産業社会全体を対象とする理論的かつ実証的な研究という広い意味でとらえ、それを学ぶための基礎を固めるために編成する。 4 専攻科目（専攻選択必修科目、専攻選択科目、専攻フィールド選択科目、専攻フィールド演習科目）は、「商学」を現代の産業社会全体を対象とする理論的かつ実証的な研究という広い意味でとらえ、商業学、会計学、経営学、経済産業の知識を体系的・有機的に身につけるために編成する。 この教育課程の編成のもと、講義・演習の他、アクティブラーニング、フィールドワーク、PBLなどの教育法を組み合わせ教育を実施する。
入学者の受入れに関する方針 （公表方法：慶應義塾web「各学部における3つの方針」ページにて公表している。

<https://www.keio.ac.jp/ja/about/data/policies-faculty/>

(概要)

求める学生像

(1) 社会に対して強い関心を持っている人

現代の産業社会全体を対象とする理論的かつ実証的な研究たる「商学」を入学後に研究するために、普段から社会に対して強い関心を抱き、主体的に学習に取り組む態度を持っている。

(2) 論理的な思考能力が高い人

現代の産業社会がいかなる問題を抱えているかを自ら発見し、それをいかに解決していくことができるかを提案・発信するために、普段から物事を論理的に思考し、判断し、そして表現することができる。

(3) 資料を読み解く力が強い人

問題の発見、解決策の提示に先立って、既定の常識が何かを知ったり、常識に対して批判的な目を向けたり、あるいは、問題の発見・解決策の提案の糸口を求めたりするために、普段から資料を読み解くことで知識を蓄える技能を持っている。

(4) 英語をはじめとする基礎学力を磨いている人

問題の発見、解決策の提示に間接的に関連し、とりわけ国際社会に貢献できる人材となるために必要な、英語をはじめとする基礎的な知識・技能を普段から磨いている。

選抜の基本方針

このような入学者を幅広く受け入れるため、(1) 一般選抜 (A方式)、(2) 一般選抜 (B方式)、(3) 指定校推薦入学制度、(4) 外国人留学生対象入学試験により選抜を実施する。

1. 一般選抜 (A方式)

国内外における高校卒業相当の学力と、当学部で学ぶために必要となる素養を身につけた学生を、筆記試験の得点によって選抜する入試制度であり、A方式では、外国語、地理歴史、数学について個別学力検査を課し、基礎的知識と、判断力・思考力・表現力を評価する。

2. 一般選抜 (B方式)

国内外における高校卒業相当の学力と、当学部で学ぶために必要となる素養を身につけた学生を、筆記試験の得点によって選抜する入試制度であり、B方式では、外国語、地理歴史、論文テストについて個別学力検査を課し、基礎的知識と、表現力・思考力・判断力を評価する。

3. 指定校推薦入学制度

国内において学業および学業以外の優れた業績をもつ個性豊かな学生を、全国各地の指定高等学校からの学校長推薦に基づいて、総合的に選抜する入試制度であり、推薦書、調査書、志願者調書、課題小論文による書類審査を課し、基礎的知識と、思考力・判断力・表現力に加えて、主体的に学習に取り組む態度を評価する。

4. 外国人留学生対象入学試験

国外において教育を受けた受験者の能力と適性を多面的に評価することにより、広く多様性と力量のある学生を選考する入試制度であり、第1次選考では日本留学試験、TOEFL iBT、調査書、志望理由書による書類審査、第2次選考では面接審査を課し、基礎的知識と、思考力・判断力・表現力に加えて、主体的に学習に取り組む態度を評価する。

学部等名 医学部

教育研究上の目的

(公表方法：慶應義塾web「情報公開」ページにて公表している。

https://www.keio.ac.jp/ja/about/assets/data/purpose-undergraduate.pdf
(概要) 独立自尊の気風を養い、豊かな人間性と高い倫理観を持ち、患者中心の医療を実践し、世界の医学を先導する人材を育成する。
卒業又は修了認定に関する方針 (公表方法：慶應義塾web「各学部における3つの方針」ページにて公表している。 https://www.keio.ac.jp/ja/about/data/policies-faculty/)
(概要) 医学部の使命・教育目標に基づき、カリキュラム・ポリシーに沿った全科目（外国語科目、人文・社会科学科目、基礎科学必修科目、医学基礎教育科目から構成される「基礎教育科目」、基礎・社会医学系科目、自主学習、臨床医学系科目から構成される「専門教育科目」）を履修し、学則で定めた卒業条件を満たし、さらに以下に定める8つの卒業時コンピテンスを修得した学生に学士（医学）の学位を授与する。 I. プロフェッショナリズム II. 医学知識 III. 診療の実践 IV. コミュニケーション V. チーム医療の実践 VI. 医療・福祉への貢献 VII. 科学的探究 VIII. 国際医療人としての資質 ※「自主学習」とは、研究室に配属され、教員とマンツーマンで研究活動をおこなう教育プログラム。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：慶應義塾web「各学部における3つの方針」ページにて公表している。 https://www.keio.ac.jp/ja/about/data/policies-faculty/)
医学部の使命・教育目標に基づき、「自律的学習能力」「科学的思考能力」「医療プロフェッショナリズム」「基本的臨床能力」の修得を基本方針として、基礎教育科目、専門教育科目（基礎・社会医学系科目、自主学習、臨床医学系科目）の有機的連携を図り、8つの卒業時コンピテンスを修得するための学部カリキュラムを編成・実施する。 I. プロフェッショナリズム II. 医学知識 III. 診療の実践 IV. コミュニケーション V. チーム医療の実践 VI. 医療・福祉への貢献 VII. 科学的探究 VIII. 国際医療人としての資質
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：慶應義塾web「各学部における3つの方針」ページにて公表している。 https://www.keio.ac.jp/ja/about/data/policies-faculty/)
(概要) 本学医学部は、本学の使命「独立自尊と実学（サイエンス）の精神に基づき、患者中心の医療を実践し、世界の医学を先導する」に基づき、「基礎臨床一体型の医学・医療の実現」の理念の下、人材を育成してきた。 本学医学部は、この使命・建学の精神を理解し、次世代を先導し、豊かな人間性と深い知性を併せ持つ医学生を強く求める。そのために、創立者 福澤諭吉の「一身独立（自ら考え、実践する）」の教えを理解し、世界に雄飛し、患者中心の医療を実現できるphysician scientist（科学的思考力を備えた医師）となりうる医療人として

の資質、使命感、学習意欲を重視し、卒業時コンピテンスを修得しうる人材を選抜する。

入学試験での評価は、次のように行う。

基礎学力：学科筆記試験（数学、理科、英語。詳細は入試要項参照のこと）、面接、および小論文により評価する。

学習意欲・態度、使命の理解、倫理感：調査書、面接、小論文により評価する。

読解力・文章能力：学科筆記試験、小論文により評価する。

自らの考え方を他者に説明する能力、コミュニケーション能力：面接、小論文により評価する。

【入学までに身につけておくべきこと】

医学部では、幅広い知識や技能を修得し、実践することが求められる。また、卒業後は、医療人として、生涯にわたって学び続けることが求められる。そのために、大学に入学するまでに、次の教科・科目についての学力とともに、自ら学ぶ学習態度を身につけることが期待される。

数学：数量的な概念の理解、論理的思考力、計算力

理科：物理、化学、生物など自然科学についての十分な理解と科学的思考力

英語：英語の読解力、表現力、コミュニケーション能力

特別活動および課外活動：主体性、協調性、共感・思いやり・気遣い、利他性(奉仕の心)、倫理感、責任感、洞察力など

学部等名 理工学部

教育研究上の目的

(公表方法：慶應義塾web「情報公開」ページにて公表している。

<https://www.keio.ac.jp/ja/about/assets/data/purpose-undergraduate.pdf>)

(概要)

理工学の研究教授を通して、豊かな創造力、確かな研究・開発能力、幅広い国際教養を修得した先導者を育成することを目的とする。

機械工学科

エンジニアに求められるセンス

これからの社会は、「メカニクス」と「情報」によって支えられると考えている。メカニクスとは、「質量を持つ物体およびエネルギー」を対象とする学問分野の総称で、実在するモノを人間社会に役立てることを追求する工学（エンジニアリング）の原点である。地球環境や人間社会と調和する科学技術の確立が、これからのエンジニアには求められている。時代を超えたベーシックサイエンスと実践的カリキュラムこれからの科学技術は、いままでとは異なった発想が必要である。そのため、将来のエンジニアとして活躍が期待されるみなさんにぜひ身につけてほしいことは、「メカニクスの基本」と「自由な発想」の融合である。機械工学科のカリキュラムでは、メカニクスの本質を学ぶ「力学の基礎」科目と、学生個々の夢とアイデアを実現する手段を学ぶ実技・実習科目を用意し、基礎力・探究心・創造性に溢れる人材の育成を目指している。

電気情報工学科

新たな技術革新を生み出す技術者、研究者の養成電気情報工学は、電気と光を情報処理・伝達的手段やエネルギー源として工学技術に応用する学問分野である。電気情報工学の発展は日進月歩で、かつ学際領域へも幅広く展開されているため、最先端であっても表層的な知識では、すぐに役に立たなくなってしまう。電気情報工学科では、新たな先端

技術を切り拓く技術者、研究者を養成するためには、体系化された基礎学問をきちんと修得することが重要であるという考えに基づき、数学、電磁気学、量子力学、物性工学、電気・電子回路、情報工学、制御工学といった電気情報工学に関係する学問体系をきちんと身につけることを教育の目的としている。さらに、半導体デバイス、集積回路、フォトリソグラフィ、情報・通信などの電気情報工学とその応用分野の最先端研究に参画することで、技術のブレークスルーを主体的に進めることができる人材の育成を目指している。

応用化学科

人類のグローバルな課題に挑む化学の基礎から応用までを網羅する応用化学は、化学の基礎に立脚し、新しい物質をデザインし、創り出し、その物質の機能を制御することを目的とした学問分野である。このため、その研究領域は物質に関わるあらゆる分野、すなわち物理学、生物学、薬学や医学などにも広がっている。応用化学科では、環境・エネルギー・医療など人類の生活水準の向上において問題となるグローバルな課題を、物質を通して解決することで、未来の持続型社会の構築に貢献できる科学者・技術者を養成するように努めている。応用化学科では、高い専門性と広い視野を身に付け、これからの国際社会で活躍することのできる人材育成のため、化学の共通基礎科目と、その上に4つの研究分野（マテリアルデザイン、環境・分析・プロセス工学、オーガニックサイエンス、バイオサイエンス）を設けた特色あるカリキュラムを用意している。

物理情報工学科

物理情報工学科は、イノベーションにつながる応用物理を学ぶ学科であり、物理学と数学を基盤として、森羅万象に潜む物理現象やシステムに対する「真理の探究」を行うとともに、新しい「価値の創造」に果敢に挑戦している。本学科の使命は、(1)世界的に高く評価される研究、(2)国際社会のリーダーとなる学生の育成、の2つである。研究対象は、化学や生物学・医学的な領域も含めた「広い意味での物理」分野であり、先端工学の特徴である自動化・情報化・システム化を取り入れることによって、新しい情報技術・医療技術・環境エネルギー技術の創出を目指している。教育目標は、森羅万象が私たちに囁きかけている“声”に耳を傾け、語り掛けようとしている“表情”に目を向けられるような「物理情報」力の先導的育成であり、「自我作古」の勇氣と使命感を持って「前人未踏の新しい分野」を開拓する気概のあるチャレンジ精神の醸成である。

管理工学科

科学技術を社会基盤に変えるためにある技術開発が人間や社会にとって真に必要なか？生産・普及が容易か？資金面で実現可能か？従来、科学者や技術者の思考の枠外にあった、こうした視点や発想が益々重要になっている。科学技術の成果を価値ある社会基盤へと昇華させるためには、情報、資金、ハードウェアといった異質な要素を関連づけるためのマネジメント技法を開発せねばならない。人間社会システムのデザインとマネジメント管理工学とは上述のように技術開発の是非を問い、実行に移すための理論と応用を旨とする学問であり、具体的な研究フィールドは、生産システム、インターフェイス設計、企業体、公的組織体から、交通システム、都市システム、世界経済や環境問題まで、多様な広がりを持つ。当学科は、科学技術全般から人間心理や企業経営、社会動向までを勘案できる総合的な思考力と、問題発見の能力を持った技術者と研究者の養成を目指す。

数理科学科

数学および統計科学など、数理科学の理論と研究手法を教授することで、抽象的・普遍的に物事を見る力やデータから情報を的確に読み取る力を育み、変化する時代においても確実な判断を下し、幅広く社会に貢献する人材の育成を目的とする。

物理学科

物理学科では、全ての科学技術の基礎である物理学を学び、論理的に思考できる力と問題解決能力を身につけた、社会に貢献できる人材を育成することを教育研究の目的とする。物理学は、極微の世界から物質、生命、宇宙にいたる幅広いスケールの自然現象を調べ、背後に潜む普遍的な原理や基本法則の解明を使命とする精密科学であると同時に、科学技術が高度に発達した現代社会を根底から支える基盤科学である。従って、物理学の進歩は人類の更なる発展にとって非常に重要である。物理学科は、高度の専門知識を武器に様々な重要問題に柔軟かつ果敢に挑戦する人材がこれからの社会に必要なであるという理念の下に、精密科学と基盤科学に根ざした知的探求を通じた教育研究を行い、科学技術分野を中心に広く社会に貢献できる優秀な人材を輩出することを目指す。

化学科

化学科は、自然科学として化学を追究し、分子・原子スケールの基礎的理解に基づいて、理論・物理化学から、無機化学、有機化学、生命化学まで「幅広くかつ質の高い基礎化学」の教育を通じて、将来にわたって理工学における新たな概念・ユニークな物質の創成を実現する国際レベルの科学者・研究開発技術者を育成することを目的とする。

システムデザイン工学科

基盤技術を総合的に活用システムデザイン工学とは、工学システムとそれを取り巻く環境との調和性を実現する新しい学問学分野である。システムとは、宇宙、エネルギー環境、建築、情報、ロボット、バイオなどのハードウェアシステムとインフラストラクチャを意味し、デザインとは、システムを構成する要素の価値を高める最適システムの設計と制御のことである。システムデザイン工学では、個々に独自の発達を遂げてきた要素技術を統合し、技術と技術、技術と人間、技術と社会のより高い調和した状態をデザインすることを目指している。システムデザイン技術の体得システムデザイン工学では、設計の対象とそれを取り巻く環境を含めてシステムとしてとらえ、その問題点を解析・抽出し、新しいシステムの設計・提案を行う。カリキュラムは工学的アプローチの基本である力学的手法と制御情報的手法を柱とし、そこから基礎技術を融合する学問を教授する。

情報工学科

20世紀後半になって個人を時間的、場所的な束縛から解放する情報を扱う技術が発展した。さらに21世紀に入り、情報は人だけでなく、ロボットのような知的機械から、日常のありふれた物までも対象とするようになった。情報を有機的に効率よく交換させるための通信の技術とその未来を正しく理解し、情報を把握して人間の役に立つように処理する画像・音声およびコンピュータ技術をしっかり身につけた、世界をリードする先端技術者を養成することが情報工学科の使命である。このような、コンピュータ科学、メディア工学、通信工学を「情報」の観点から融合的に扱う情報工学分野において、情報の発生、獲得、伝達、蓄積、処理、表示などにわたる学術の発展と人材の養成を通じて、社会に貢献することを目的とする。

生命情報学科

生命情報学科では、生命科学の新時代を見据えた人材育成を目指す。ヒトゲノムの全容が明らかになり、DNA暗号から作られるRNAやタンパク質、細胞表面の糖鎖などとの相互作用が作り出す様々な生命システムの解明は、新しい産業を興している。またヒトの神経系や認知機能に関する研究は、超高齢化社会に向けての重要な基盤技術を提供する。生命情報学科はこの新しい分野を自らの手で開拓し、幅広い知識と専門性を兼ね備えた、中核的役割を果たす人材を育成する。生命情報学科では、基

礎学力として生物系，化学系，物理系，情報系の4つの分野を身に着けるために，今までにないカリキュラムを提供する。具体的には，物理・化学に基礎を置いた生体高分子の考え方，コンピュータを利用した生命機能・構造に関する膨大な情報の扱い方などを，実験・実習などで実際に手を動かしながら，「生命現象をシステムとして理解すること」を習得させる。
卒業又は修了認定に関する方針 (公表方法：慶應義塾web「各学部における3つの方針」ページにて公表している。 https://www.keio.ac.jp/ja/about/data/policies-faculty/)
(概要) 機械工学科 慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を前提として、建学の精神のもと、自らの力で世界を先導することのできる創造性と総合力のある人材の育成を目指す。機械工学の基盤である力学体系を理解するとともに、技術者倫理を踏まえ、地球環境・社会環境も視野に入れた総合的な現象解明や創造的な設計・もの創りを行う能力を養成することを目標とする。加えて、教育課程において定める所定の要件を満たした学生に対し、学士(工学)の学位を授与する。 資質・能力目標 資質・能力目標（１）：基礎的な理解 ・ 数学、物理学、化学、生物学などの自然科学の基本を理解していること。 ・ 機械工学の根幹をなす力学体系に関する基本理論を理解するとともに、これを問題に適用して理論解析できる能力を身に付けていること。 ・ 機械工学の基礎となる設計法・加工法の基本を理解するとともに、設計目的や加工法を考慮して設計を行える能力を身に付けていること。 ・ 幅広い教養（多様な文化、歴史、経済、福祉等の問題を理解する能力）を身に付けるとともに、機械工学を取り巻く技術者倫理問題、地球環境問題、社会環境問題の基本を理解していること。 資質・能力目標（２）：現象をモデル化し解析する力 ・ 機械工学の基盤である力学体系に即した現象のモデル化手法および数値解析法を理解するとともに、実際に解析する能力を身に付けていること。 ・ 機械工学の基盤である設計法に関し、計算機援用設計法・加工法・解析法（CAD、CAM、CAE）を理解するとともに、実際にこれらを用いる能力を身に付けていること。 ・ 機械システムなどの人工物を、様々な設計目的、設計条件（地球環境問題、社会環境問題、製造者責任、経済性などの環境条件を含む）のもとで適切に設計するための、総合的な設計問題モデル化能力を身に付けていること。 資質・能力目標（３）：問題発掘力・創造力・遂行力 ・ 地球環境問題・社会環境問題・技術者倫理問題も含めた幅広い分野に関する実態や動向について調査し、問題を発掘する能力を身に付けていること。 ・ 演繹的、帰納的、仮説的な推論を繰り返しながら、問題解決のための合理的な方策を考案あるいは創造する能力を身に付けていること。 ・ 問題解決に至るプロセスを、自主的に、あるいは他者との協働により遂行し、結果をまとめることのできる能力を身に付けていること。 資質・能力目標（４）：表現力・コミュニケーション能力 ・ 実験，解析，設計，研究の経過や成果等について、他者に論理的に伝える文章能力ならびにプレゼンテーション能力を身に付けていること。 ・ 多様な価値観を持つ他者と議論し相互理解できるコミュニケーション能力を身に付けていること。 ・ 英語力の基礎を身に付けていること。また、専門的な内容について英語でコミュニケーションする能力の基礎を身に付けていること。

電気情報工学科

慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を前提として、新たな技術革新を先導できる技術者および研究者の育成を目指す。電気情報工学は、電気と光を情報処理・伝達的手段やエネルギー源として応用する学問分野である。その発展を先導し、支える技術者および研究者を育成するため、体系化された基礎学問を重視し、数学、電磁気学、量子力学、物性工学、電気・電子回路、情報工学、制御工学といった電気情報工学の学問体系の修得に重点を置いて教育する。さらに、エレクトロニクス、フォトンクス、インフォマティクスの各応用分野の専門性を深めさせ、学際領域を含む最先端研究に参画させることで、技術ブレイクスルーを自ら生み出す能力を涵養することを目標とする。加えて、教育課程において定める所定の要件を満たした学生に対し、学士(工学)の学位を授与する。

資質・能力目標

資質・能力目標（１）：数学、電磁気学、量子力学、物性工学、電気・電子回路、情報工学、制御工学などの電気情報工学の基盤となる知識・技能を修得している。

資質・能力目標（２）：エレクトロニクス、フォトンクス、インフォマティクスの各応用分野の最先端技術に精通している。

資質・能力目標（３）：電気情報工学に関する知識・技能だけでなく、多角的な視点から思考し、学際領域を含む技術ブレイクスルーを自ら生み出せる。

資質・能力目標（４）：国際的な視野を持ち、多様な人々と協働できる。

応用化学科

慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を前提として、環境、エネルギー、医療などのグローバルな課題を解決し、持続可能な社会を構築する科学者と技術者の養成を目指す。応用化学は、化学の基礎から応用までを網羅し、新しい物質をデザインし、創り出し、その機能を制御することを目的とした学問である。物質が関連する物理学、生物学、薬学、医学など幅広い分野への展開を目指し、化学に関する広い視野と深い専門性を涵養することを目標とする。加えて、教育課程において定める所定の要件を満たした学生に対し、学士（工学）の学位を授与する。

資質・能力目標

資質・能力目標（１）：化学の基盤となる幅広い基礎力：物理化学・無機化学・分析化学・有機化学・高分子化学・生物化学・化学工学といった化学の基盤となる基礎的な知識や技術力を身につける。

資質・能力目標（２）：国際的なコミュニケーション能力：化学に関する情報を英語で読み考え、自分の意見を英語で発信し、他者の意見を正しく理解し、国際的に活躍できる力を習得する。

資質・能力目標（３）：化学を軸とした応用的思考力：幅広い化学の分野における高度な学問的センスと、化学を軸として物事の本質を正しく理解し、活用し、制御するための思考力を涵養する。

資質・能力目標（４）：実験技術と応用力：学修した知識等を活用しながら、安全かつ着実に実験を遂行する技術力を身につける。

物理情報工学科

慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を前提として、物理学と数学を基盤として応用物理学、エレクトロニクスおよびシステム科学を学び、真理の探究、新しい価値の創造ならびに社会の発展と持続に寄与する応用力、創造力、総合力を修得することを目標とする。加えて、教育課程において定める所定の要件を満たした学生に対し、学士（工学）の学位を授与する。

資質・能力目標

資質・能力目標（１）：人間、社会、自然に対する深い洞察力と知力ならびに豊かな創造力、視野の広い柔軟な思考力を身につけている。

資質・能力目標（２）：自然科学と情報学の基礎を修得し、科学技術と社会の関係を理解し、確かな研究・開発能力の基礎を身につけている。

資質・能力目標（３）：応用物理学、エレクトロニクスとシステム科学の基盤となる物理学と数学を身につけている。

資質・能力目標（４）：応用物理学とエレクトロニクスを体系的に理解し、システム科学を応用して、真理の探究、新しい価値の創造ならびに社会の発展と持続に寄与する応用力、創造力、総合力を身につけている。

管理工学科

慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を前提として、理工学の基礎的素養を備え、科学的・工学的な問題解決の考え方とアプローチを身につけ、旺盛な問題意識と異質な諸要素への関心に支えられた総合的な視野を持つ人材の養成を目標とする。管理工学の研究フィールドは、生産システム、インターフェイス設計、企業体、公的組織体から、交通システム、都市システム、世界経済や環境問題まで多様な広がりを持つことから、科学技術全般から人間心理や企業経営、社会動向までを勘案できる総合的な思考力と、問題発見の能力を涵養する。加えて、教育課程において定める所定の要件を満たした学生に対し、学士(工学)の学位を授与する。

資質・能力目標

資質・能力目標（１）：問題解決に必要な原理、基礎的技術：情報科学と人工知能、システムと人間、応用統計と最適化、経営と経済に関する原理、原則、基礎的な知識、技術を修得する。

資質・能力目標（２）：管理工学における諸領域の幅広い知識とその連携：幅広く管理工学の諸領域について理解し、領域間の有機的なつながりを意識することができる。

資質・能力目標（３）：専攻領域における知識・技能：特定の専攻領域において深い専門知識と技術を修得する。

資質・能力目標（４）：多角的な視点からの問題発見・解決能力：専門領域を軸としながらも、異なる分野の知識を融合し、複雑な現実社会の中から問題点を抽出し、解決を図る能力を身につける。

資質・能力目標（５）：グローバルな視野を持ち多様な人々と協働できる力：国際社会における課題に対応し、異文化間での協働を効果的に行うためのコミュニケーション能力を習得する。

数理科学科 統計学専攻

慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を前提として、統計科学や数学を基に、抽象的かつ普遍的な視点で物事を捉え、確実な判断力を養うための教育を行う。具体的には、統計科学に基づいてデータを扱うための基礎的理論の理解を重視する。また、数学の基礎理論およびコンピュータ計算の基礎の習得を目指す。これにより、どのように変化する状況においても本質を見極める力を身につけ、幅広く社会に貢献できる人材を育成することを目標とする。加えて、教育課程において定める所定の要件を満たした学生に対し、学士(工学)の学位を授与する。

資質・能力目標

資質・能力目標（１）：数学や統計科学に関する基礎を的確に理解する力を修得する。

資質・能力目標（２）：統計科学に基づいてデータを読み取り解析し、工学・社会科学の諸問題を解決する力を習得する。

資質・能力目標（３）：抽象的・普遍的な視点から物事を見る力を身につける。

資質・能力目標（４）：科学技術各分野の専門領域にとどまらず、科学技術と社会の
良い関係に着目しながら、広い視野で柔軟に思考できる力を身につける。

資質・能力目標（５）：グローバルな視野を持ち、多様性を重視して、他者と協働で
できる力を習得する。

数理科学科 数学専攻

慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を前提とし
て、数学や統計科学を基に、抽象的かつ普遍的な視点で物事を捉え、確実な判断力を
養うための教育を行う。具体的には、数学の基礎理論の理解を重視する。また、統計
科学に基づいてデータを扱うための基礎的理論およびコンピュータ計算の基礎の習得
を目指す。これにより、どのように変化する場合においても本質を見極める力を身に
つけ、幅広く社会に貢献できる人材を育成することを目標とする。加えて、教育課程
において定める所定の要件を満たした学生に対し、学士(理学)の学位を授与する。

資質・能力目標

資質・能力目標（１）：数学の基礎を的確に理解し、応用する力を修得する。

資質・能力目標（２）：社会や自然界の現象を数理的かつ多面的に捉え、抽象的・普
遍的な視点から物事を見る力を身につける。

資質・能力目標（３）：データから情報を的確に読み取る力を習得する。

資質・能力目標（４）：科学技術各分野の専門領域にとどまらず、科学技術と社会の
良い関係に着目しながら、広い視野で柔軟に思考できる力を身につける。

資質・能力目標（５）：グローバルな視野を持ち、多様性を重視して、他者と協働で
できる力を習得する。

物理学科

慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を前提とし
て、全ての科学技術の基礎である物理学を学び、論理的思考と問題解決の能力を身に
つけた社会に貢献できる人材の育成を目標とする。物理学は、極微の世界から物質、
生命、宇宙にいたる幅広いスケールの自然現象を調べ、背後に潜む普遍的な原理や基
本法則の解明を使命とする精密科学であると同時に、科学技術が高度に発達した現代
社会を根底から支える基盤科学である。物理的なものの考え方と柔軟な思考力を身に
つけることにより、如何なる問題に直面しても立ち向かっていく能力と自信を持った
人材を育成する。加えて、教育課程において定める所定の要件を満たした学生に対
し、学士(理学)の学位を授与する。

資質・能力目標

資質・能力目標（１）：物理学の基礎から応用に至るまでの広範な知識を修得する。

資質・能力目標（２）：自然現象に潜む普遍的な原理や法則を解明する能力を身に
つける。

資質・能力目標（３）：論理的に思考し、複雑な問題を解決できる力を身につける。

資質・能力目標（４）：国際社会において自身の思考や研究成果を発表でき、他者の
意見も傾聴できる力を修得する。

化学科

慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を前提とし
て、自然科学としての化学を追究し、「幅広くかつ質の高い基礎化学」の教育を通じ
て、将来にわたって理工学における新たな概念・ユニークな分子や機能物質の創成を
実現する国際レベルの研究開発が展開できる科学者・技術者の養成を目標とする。化
学科が対象とするのは、分子・原子スケールの基礎的理解に基づく物理化学から理論
化学、無機化学、有機化学、生命化学までの広範な分野であり、これらの基礎を修得
することで様々な課題に幅広い視点で、分子や機能物質の科学に高度に対応する能力
を涵養する。加えて、教育課程において定める所定の要件を満たした学生に対し、学

士(理学)の学位を授与する。

資質・能力目標

資質・能力目標(1)：幅広い化学知識の修得：物理化学から理論化学、無機化学、有機化学、生命化学までの幅広い基礎知識を体系的に修得する。

資質・能力目標(2)：実験スキルと実践的能力：様々な課題に実験的に対処して、機能物質の創成や分析を高度に行える能力に加え、現象や物質の物性を理論的に解析・予測する能力を身につける。

資質・能力目標(3)：問題解決能力：高度な専門知識と研究姿勢を身につけて、化学を軸として問題を解決する力を習得する。

資質・能力目標(4)：国際的な視野とコミュニケーション能力：国際的な視野を有し、多様な人々とコミュニケーションできる能力を身につけるとともに、英語で化学を理解する力を養う。

資質・能力目標(5)：先端分野への対応力：基礎化学を習得した上で、先端分野へと展開し、新たな課題に対応できる力をつける。

システムデザイン工学科

慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)を前提として、力学・エネルギー・制御・情報などの基盤的知識を総合的に活用し、社会・経済・文化などに関わる新しいものの見方を身につけるとともに、環境・宇宙・都市・生命など、複雑なシステムを内包する総合的環境に適応するハードウェア・ソフトウェアを設計・実現できる人材の養成を目指す。システムデザイン工学では、設計の対象とそれを取り巻く環境を含めてシステムとしてとらえ、その問題点を解析・抽出し、新しいシステムの設計・提案を行う。そのために必要な能力の涵養を目標とする。加えて、教育課程において定める所定の要件を満たした学生に対し、学士(工学)の学位を授与する。

資質・能力目標

資質・能力目標(1)：力学・エネルギー・制御・情報などの基盤的知識を習得する。

資質・能力目標(2)：社会・経済・文化などに関わる新しいものの見方を身につける。

資質・能力目標(3)：環境・宇宙・都市・生命など、複雑なシステムを内包する総合的環境に適応するハードウェア・ソフトウェアを設計・実現する能力を習得する。

資質・能力目標(4)：グローバルに多様な人々と協働できるコミュニケーション能力を身につける。

情報工学科

慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)を前提として、情報を有機的かつ効率よく処理するためのコンピュータ技術、情報を効率的に交換するための通信技術、情報を把握して人間の役に立てるための知能情報処理技術をしっかり身につけ、世界をリードする先端技術者を養成することが情報工学科の使命である。このような、コンピュータ科学、通信工学、知能情報処理を「情報」の観点から融合的に扱う情報工学分野において、情報の獲得、伝達、蓄積、処理、生成、可視化などにわたる知識、技能等の能力を涵養することを目標とする。加えて、教育課程において定める所定の要件を満たした学生に対し、学士(工学)の学位を授与する。

資質・能力目標

資質・能力目標(1)：情報技術の基礎知識の修得：コンピュータ、通信、知能情報処理など、情報工学の基礎となる技術の仕組みや原理を理解する。

資質・能力目標(2)：基礎的スキルの修得：コンピュータや情報システムの基本的な活用技術を習得し、実践でも利用可能なプログラミング技術を身につける。

資質・能力目標 (3) : 専門知識の深化: 自身が深めたい専門分野に関する高度な知識や技能を身につける。

資質・能力目標 (4) : 実践的な問題解決能力: 獲得した知識と、実践的なスキルを活用し、現実の課題を解決できる能力を身につける。

資質・能力目標 (5) : 国際的な視野とコミュニケーション能力: 国際的な視野を持ち、グローバルな技術者として多様な人々と協働できる力を身につける。

生命情報学科 (工学)

生命情報学科は、慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を前提として、生命を従来の生物学とは異なった視点で見ることができる新しいタイプの生命科学・生命工学分野の科学者・技術者・研究者、および社会の様々な分野で活躍できる多様な人材の育成を目標とする。そのために、生物系、化学系、物理系、情報系に大別される生命科学に関わる学問分野の科目を必修として課し、生物学実験を行えるだけでなく、計算機を活用できる能力の涵養を目指す。加えて、教育課程において定める所定の要件を満たした学生に対し、学士（工学）の学位を授与する。

資質・能力目標

資質・能力目標 (1) : 生命科学の根幹である生化学、分子生物学、細胞生物学等の生物関連科目について、基礎から順次系統的に学び修得する。

資質・能力目標 (2) : 物理化学・量子化学の基礎を修得し、生命体を構成する物質の根幹を理解する。加えて、生命体のエネルギー授受、刺激への応答は種々の物理現象であるので、物理学の基礎についての理解も深める。

資質・能力目標 (3) : 生体内で、物質が次々と化学的に変化する代謝反応を理解するために、有機化学の基本原則と酵素反応の機構に関する知識を身につける。

資質・能力目標 (4) : 生命は極めて柔軟なシステムであり、様々な環境に適応したり、新たな能力を獲得したりできる一方で、病的な状態へ移行する際にも特徴的な現象が見られる。こうした性質をシステム論および構成論的な視点から理解するために、数理科学や制御工学を修得する。

資質・能力目標 (5) : 遺伝情報が書かれたDNA配列やタンパク質の立体構造の情報、代謝における酵素と代謝物の濃度変化など、膨大なデータを計算機により処理していくことが必須である。このような情報処理を計算機で行うにあたり欠かせないプログラミングや情報科学の基礎、バイオインフォマティクス等に関する知識を身につける。

資質・能力目標 (6) : 生命現象を理解するには、化学、生物、物理・情報の総合的な理解が必要である。実験や実習を通してそれらの基礎を修得する。

資質・能力目標 (7) : バイオ関連産業は人類の生存に欠かせない産業基盤の一つである。医療、健康維持、食糧、環境、化学工業の諸分野に、生命科学を応用できる能力を身につける。

資質・能力目標 (8) : 学士（工学）においては、科学法則の理解に立脚した工学的視点を身につける。

生命情報学科 (理学)

生命情報学科は、慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を前提として、生命を従来の生物学とは異なった視点で見ることができる新しいタイプの生命科学・生命工学分野の科学者・技術者・研究者、および社会の様々な分野で活躍できる多様な人材の育成を目標とする。そのために、生物系、化学系、物理系、情報系に大別される生命科学に関わる学問分野の科目を必修として課し、生物学実験を行えるだけでなく、計算機を活用できる能力の涵養を目指す。加えて、教育課程において定める所定の要件を満たした学生に対し、学士（理学）の学位を授与する。

資質・能力目標 資質・能力目標（１）：生命科学の根幹である生化学、分子生物学、細胞生物学等の生物関連科目について、基礎から順次系統的に学び修得する。 資質・能力目標（２）：物理化学・量子化学の基礎を修得し、生命体を構成する物質の根幹を理解する。加えて、生命体のエネルギー授受、刺激への応答は種々の物理現象であるので、物理学の基礎についての理解も深める。 資質・能力目標（３）：生体内で、物質が次々と化学的に変化する代謝反応を理解するために、有機化学の基本原則と酵素反応の機構に関する知識を身につける。 資質・能力目標（４）：生命は極めて柔軟なシステムであり、様々な環境に適応したり、新たな能力を獲得したりできる一方で、病的な状態へ移行する際にも特徴的な現象が見られる。こうした性質をシステム論および構成論的な視点から理解するために、数理科学や制御工学を修得する。 資質・能力目標（５）：遺伝情報が書かれたDNA配列やタンパク質の立体構造の情報、代謝における酵素と代謝物の濃度変化など、膨大なデータを計算機により処理していくことが必須である。このような情報処理を計算機で行うにあたり欠かせないプログラミングや情報科学の基礎、バイオインフォマティクス等に関する知識を身につける。 資質・能力目標（６）：生命現象を理解するには、化学、生物、物理・情報の総合的な理解が必要である。実験や実習を通してそれらの基礎を修得する。 資質・能力目標（７）：バイオ関連産業は人類の生存に欠かせない産業基盤の一つである。医療、健康維持、食糧、環境、化学工業の諸分野に、生命科学を応用できる能力を身につける。 資質・能力目標（８）：学士（理学）においては、工学的観点も見据えながら専門分野に関する理学的な見方を身につける。	教育課程の編成及び実施に関する方針 （公表方法：慶應義塾web「各学部における3つの方針」ページにて公表している。 https://www.keio.ac.jp/ja/about/data/policies-faculty/）
（概要） 「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる資質・能力を養成するために、1. 総合教育科目、2. 外国語科目、3. 基礎教育科目、4. 専門教育科目、5. 自由科目を設置し、教育課程を体系的に編成する。4. 専門教育科目は、専門基礎科目および学科専門科目で構成する。 この教育課程の編成のもと、アクティブラーニング、フィールドワーク、課題解決型学習、インターンシップなどの教育法を組み合わせ教育を実施する。	入学者の受入れに関する方針 （公表方法：慶應義塾web「各学部における3つの方針」ページにて公表している。 https://www.keio.ac.jp/ja/about/data/policies-faculty/）
（概要） 理工学部では、その教育・研究理念に沿って、未知の領域に挑戦する強い意志と、深い洞察力和豊かな創造力を持ち、幅広く国際教養を身につけ、これからの日本と国際社会を先導する優れた人材の育成を目標としている。入学者選抜では、これに応えることができる、意欲が十分にある人材を受け入れる。 （１）理工学部における学修と研鑽に必要な基礎学力を有することを求める。 （２）特定の学問分野に対し、強い興味を有する学生を求める。 （３）一定水準以上の優れた学業成績を修めていることに加えて、高いレベルの自己実現を図ろうとする情熱と意欲を持つ人材を求める。 （４）海外で教育を受けた場合、その学歴背景を尊重し、広く多様性のある優秀な入学者を受け入れる。 （５）多様性を尊重し、海外で教育を受けた外国人留学生を受け入れる。 （６）慶應義塾において教育を受け、理工学部の教育理念と研究内容をよく理解して	

いる一貫教育高等学校卒業生を求める。

(7) 慶應義塾大学理工学部以外の学部において1年次教育を受け、理工学部での学修と研鑽を強く希望し、それに必要な基礎学力を有する学生を受け入れる。

(8) 慶應義塾大学を卒業し、理工学部での学修と研鑽を強く希望し、必要な基礎学力を有する者を受け入れる。

(理学)

このような入学者を幅広く受け入れるため、(1) 一般選抜、(2) 総合型選抜(分野指向型)、(3) 学校推薦型選抜、(4) 帰国生入試、(5) 外国人留学生入試、(6) 一貫教育高等学校からの推薦入学、(7) 第2学年編入学試験、(8) 学士入学試験により選抜を実施し、様々な能力やバックグラウンドをもつ学生が互いに切磋琢磨し、創発効果を生み出せる教育研究環境を目指す。

(1) 一般選抜

理科(物理・化学)、数学、外国語(英語)の筆記試験を行って選抜する。

(2) 総合型選抜(分野指向型)

志願者の興味ある学問分野に応じて、書類審査、筆記による基礎力および応用力の審査、面接試験等を行って選抜する。

(3) 学校推薦型選抜

高等学校長および中等教育学校長からの推薦に基づき、書類審査を行って選抜する。

(4) 帰国生入試

書類審査、参考小論文試験、面接試験を行って選抜する。

(5) 外国人留学生入試

書類審査、面接試験等を行って選抜する。

(6) 一貫教育高等学校からの推薦入学

一貫教育高等学校長からの推薦に基づき、書類審査を行って選抜する。

(7) 第2学年編入学試験

書類審査、面接試験を行って選抜する。

(8) 学士入学試験

書類審査、面接試験を行って選抜する。

学部等名 総合政策学部

教育研究上の目的

(公表方法：慶應義塾web「情報公開」ページにて公表している。

<https://www.keio.ac.jp/ja/about/assets/data/purpose-undergraduate.pdf>)

(概要)

総合政策学部は、多様な問題を解決し社会を先導する「問題解決のプロフェッショナル」を育成することを目標とし、「実践知」を教育理念としている。政治、法律、経済、社会、文化、テクノロジー、心と体などさまざまな領域を取り込みながら、問題を発見し、その解決に向けて学生と教員が一体となって取り組むことを重視する。高い問題意識に基づき、自ら考え、自らの手で未来を拓く力を磨く意欲ある人材を育成することを目的とする。

卒業又は修了認定に関する方針

(公表方法：慶應義塾web「各学部における3つの方針」ページにて公表している。

<https://www.keio.ac.jp/ja/about/data/policies-faculty/>)

(概要)

慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)を前提として、複雑な社会現象のなかから政策課題を発見し、その解決に向けて政策を立案し、これを実施する態度・知識・技能を身につけた、自ら考え、自らの手で未来を拓く先導者の養成を

目標とする。加えて、教育課程において定める所定の要件を満たした学生に対し、学士（総合政策学）の学位を授与する。

資質・能力目標

資質・能力目標（１）：実践知の考え方

実学（サイエンス）の精神のもと、自ら考え、自らの手で未来を拓こうとする力。

資質・能力目標（２）：問題発見・問題解決の態度

目の前にある明らかな問題を見過ごさないだけでなく、隠された問題を見つけ出し、解決に向けて実践する力。

資質・能力目標（３）：多様な専門知識の総合的理解

不確実性が一層に高まる社会を歩み抜くために必要な言語能力、データサイエンス、情報技術、ウェルネスの力を備え、総合政策学部が持つ多様な専門分野「国際戦略」、「言語文化とコミュニケーション」、「社会イノベーションと経営・組織」、「政策デザイン」、「総合政策学の方法論」で培われた既存の知識を理解し、それらを再構築して体系化し、実践する力。

資質・能力目標（４）：革新的な発想や方法を創造する技能

既存の方法だけでなく、それにとらわれずに新たな方法を創造する力。

資質・能力目標（５）：異なる主体との協働

多様な主体とのコミュニケーションに対する高い意欲を持ち、立場を越えてともに実践し、発信する力。

教育課程の編成及び実施に関する方針

（公表方法：慶應義塾web「各学部における3つの方針」ページにて公表している。

<https://www.keio.ac.jp/ja/about/data/policies-faculty/>）

（概要）

総合政策学部（学士）は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる資質・能力を養成するために、基盤科目（総合講座科目、言語コミュニケーション科目、データサイエンス科目、情報技術基礎科目、ウェルネス科目、共通科目）、先端科目、研究プロジェクト科目、特設科目から構成される教育課程を体系的に編成する。

この教育課程の編成のもと、グループワーク、アクティブラーニング、フィールドワーク、PBL、インターンシップなどの教育法を組み合わせ教育を実施する。

入学者の受入れに関する方針

（公表方法：慶應義塾web「各学部における3つの方針」ページにて公表している。

<https://www.keio.ac.jp/ja/about/data/policies-faculty/>）

（概要）

求める学生像

- （１） 学部が理念として掲げる「実践知」やその理念に基づく教育内容を良く理解し、問題発見・問題解決の能力の修得に意欲を持っている学生
- （２） 高等学校等の教育課程で培われた基礎的学力を背景に、SFC の教育環境やシステムなどあらゆるリソースを積極的に活用することで、より高いレベルでの自己実現を図ろうとする情熱を持った学生
- （３） 社会の変化を見通し、人類社会が直面する問題を発見・分析し、自分の課題として積極的にこれを解決へと導くことができる学生

このような入学者を幅広く受け入れるため、（１）AO入試（春AO、夏秋AO）、（２）一般選抜、（３）AO入試（冬AO（グローバル））、（４）外国人留学生入試、（５）帰国生入試により、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」などの要素に基づき、未来のグローバル社会を創造する先導者

となれる人物であることを評価し、選抜を実施します。

(1) AO入試（春AO、夏秋AO）

書類審査（1次選考）において基礎的学力や知識・技能・思考力・判断力・表現力・意欲、学業以外の諸成果等の評価し、面接（2次選考）において、上記「求める学生像」に相応しい人物であることを総合的に評価します。

(2) 一般選抜

学科試験（外国語・数学・情報）により基礎的学力を評価し、小論文において読解、発想、論理的構成、表現などの総合的能力を評価します。

(3) AO入試（冬AO（グローバル））

上記「求める学生像」に相応しいこと、および、GIGAプログラム（英語のみで卒業を可能とするプログラム）終了後、国際的なフィールドで活躍できる人物であることを、書類により多面的に評価します。

(4) 外国人留学生入試

書類審査（1次選考）において海外で受けた教育により修得した能力や基礎的学力等を多角的に評価し、面接（2次選考）において入学後の適性や人物について総合的に評価します。

(5) 帰国生入試

書類審査（1次選考）において海外で受けた教育により修得した能力や基礎的学力等を多角的に評価し、小論文（2次選考）において発想、論理的構成、表現などの総合的能力を評価します。

学部等名 環境情報学部
教育研究上の目的 (公表方法：慶應義塾web「情報公開」ページにて公表 https://www.keio.ac.jp/ja/about/assets/data/purpose-undergraduate.pdf)
(概要) 環境情報学部は、地球的規模で問題を発見しそれらの問題を解決することを目標とし、そのために、既存の学問に加え全く新しい学問に挑戦し続けることを研究教育方針としている。情報、生命、心身の健康、環境とエネルギー、デザイン、防災やメディアなどの新しい課題領域に対応するために、自らの力とともに、仲間との協働の力によって、先端の科学とテクノロジーを前提とした未来のグローバル社会を創造する先導者の育成を目的とする。
卒業又は修了認定に関する方針 (公表方法：慶應義塾web「各学部における3つの方針」ページにて公表している。 https://www.keio.ac.jp/ja/about/data/policies-faculty/)
【教育目標】 慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を前提として、先を見通せない時代を生き抜き、未来のグローバル社会を創造する先導者の育成を目標とする。加えて、教育課程において定める所定の要件を満たした学生に対し、学士（環境情報学）の学位を授与する。
【資質・能力目標】 資質・能力目標（1）：主体的に問題を発見解決する能力 問題を発見し、解決する力を持つだけでなく、主体的に取り組むことができる能力を習得する。 資質・能力目標（2）：問題発見解決を支える知識と技能 問題発見・解決を支える基礎的な知識と技能となる、言語、データサイエンス、情報技術、ウェルネスの力を習得する。

資質・能力目標（３）：専門分野の知識と技能 環境情報学部が持つ多様な専門分野「先端情報システム」「先端領域デザイン」「先端生命科学」「環境デザイン」「人間環境科学」における知識と技能を習得する。 資質・能力目標（４）：学際的なアプローチと協働力 複数の専門領域に跨がって問題に取り組む能力とともに、異なる専門領域の仲間と協働できる能力を養う。 資質・能力目標（５）：困難に立ち向かう実行力と発信力 問題発見解決において困難な状況に直面しても、それを突破して実行し発信する能力を習得する。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：慶應義塾web「各学部における3つの方針」ページにて公表している。 https://www.keio.ac.jp/ja/about/data/policies-faculty/)
(概要) 環境情報学部（学士）は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる資質・能力を養成するために、基盤科目（総合講座科目、言語コミュニケーション科目、データサイエンス科目、情報技術基礎科目、ウェルネス科目、共通科目）、先端科目、研究プロジェクト科目、特設科目から構成される教育課程を体系的に編成する。 この教育課程の編成のもと、グループワーク、アクティブラーニング、フィールドワーク、PBL、インターンシップなどの教育法を組み合わせ教育を実施する。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：慶應義塾web「各学部における3つの方針」ページにて公表している。 https://www.keio.ac.jp/ja/about/data/policies-faculty/)
(概要) 【求める学生像】 （１）地球環境や人間社会に存在する数多の未解決な問題を発見しそれらの問題を解決するという学部の理念や教育内容を良く理解している学生 （２）高等学校等の教育課程で培われた基礎的学力を背景に、SFC の教育環境やシステムなどあらゆるリソースを積極的に活用することで、より高いレベルでの自己実現を図ろうとする情熱を持った学生 （３）時代に変革を起こし、明るい未来を創り出すために、独自のビジョンとアイデアに基づき挑戦する意欲のある学生 【選抜の基本方針】 このような入学者を幅広く受け入れるため、（１）AO入試（春AO、夏秋AO）、（２）一般選抜、（３）AO入試（冬AO（グローバル））、（４）外国人留学生入試、（５）帰国生入試により、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」などの要素に基づき、未来のグローバル社会を創造する先導者となれる人物であることを評価し、選抜を実施します。 （１）AO入試（春AO、夏秋AO） 書類審査（１次選考）において基礎的学力 や知識・技能・思考力・判断力・表現力・意欲、学業以外の諸成果等を評価し、面接（２次選考）において、上記「求める学生像」に相応しい人物であることを総合的に評価します。 （２）一般選抜 学科試験（外国語・数学・情報）により基礎的学力を評価し、小論文において読解、発想、論理的構成、表現などの総合的能力を評価します。 （３）AO入試（冬AO（グローバル））

上記「求める学生像」に相応しいこと、および、GIGAプログラム（英語のみで卒業を可能とするプログラム）終了後、国際的なフィールドで活躍できる人物であることを、書類により多面的に評価します。 (4) 外国人留学生入試 書類審査（1次選考）において海外で受けた教育により修得した能力や基礎的学力等を多角的に評価し、面接（2次選考）において入学後の適性や人物について総合的に評価します。 (5) 帰国生入試 書類審査（1次選考）において海外で受けた教育により修得した能力や基礎的学力等を多角的に評価し、小論文（2次選考）において発想、論理的構成、表現などの総合的能力を評価します。
--

学部等名 看護医療学部
教育研究上の目的 (公表方法：慶應義塾web「情報公開」ページにて公表している。 https://www.keio.ac.jp/ja/about/assets/data/purpose-undergraduate.pdf) (概要) 本塾建学の精神に則り、生命・人間尊重の精神と豊かな人間性を備え、深い知性と倫理観に基づく判断力と実践力を持ち、生涯にわたって研鑽を続け、看護医療を通して人類の福祉に貢献する人材の育成を目的とする。この理念に基づく人材養成にあつては、次のような資質を涵養することを目標とする。(1)基本倫理としての生命・人間尊重の精神を身につけ、人間的に調和の取れた人格を備え、社会人として成長しうる素地を培う。(2)看護の知識・技術を駆使して新しい看護活動の場を創造し、保健・医療・福祉の発展に寄与する基礎能力を養う。(3)看護学の実践・研究および他の学問分野との相互交流により実学としての看護医療の発展を先導する人材を育成する。 卒業又は修了認定に関する方針 (公表方法：慶應義塾web「各学部における3つの方針」ページにて公表している。 https://www.keio.ac.jp/ja/about/data/policies-faculty/) (概要) 慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を前提として、「生命・人間尊重の精神の涵養と看護の判断能力、問題解決能力、実践力の養成」、「看護活動の創造と保健・医療・福祉の発展、および、看護学の体系化を図り、他の学問分野と相互交流して実学としての看護の発展に寄与する人材の育成」を教育目標とする。 加えて、教育課程において定める所定の要件を満たした学生に対し、学士（看護学）の学位を授与する。 資質・能力目標（1）：基盤となる人間力 基本倫理としての生命・人間尊重の精神とともに、人間的に調和の取れた人格を備え、社会人として成長することができる力。ならびに、幅広く社会への関心をもち、人々と出会い交流し、相互作用を起こすことができる力を身につけていること。 資質・能力目標（2）：看護・医療の専門力 これからの社会や、人々の生活を見据え、看護の知識や技術を駆使して新しい看護活動の場を創造し、保健・医療・福祉を先導するための基礎的な力を身につけていること。 資質・能力目標（3）：連携・協働する力 高度化された医療に対応する、さまざまな専門職で構成されたチームにおいて、お互いの専門性を最大限に活かしながら、より優れた実践につなげるために行動できる力を身につけていること。

資質・能力目標（4）：国際的に活動する力 国際的な感覚とともに、日本のポジションや役割を的確に捉えることのできる幅広い教養を備え、他の国々の医療専門職と協働できる、柔軟な発想や行動力を含めた基礎的な力を身につけていること。 資質・能力目標（5）：変化を起こす力 看護や医療および社会で起こっている、あるいは起こる可能性のある事象へ関心をもち、そこから問題を発見する批判的な力と、その問題を解決し、既存の枠を変革していく力を身につけていること。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：慶應義塾web「各学部における3つの方針」ページにて公表している。 https://www.keio.ac.jp/ja/about/data/policies-faculty/)
(概要) 看護医療学部は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる資質・能力を養成するために、情報技術科目、自然言語科目、専門教育科目から構成される教育課程を体系的に編成する。 この教育課程の編成のもと、講義・演習・実習の授業形態を組み合わせるとともに、アクティブラーニングを促進するため、双方向型学習、反転授業、グループワーク、プレゼンテーション、学生間のディベート、シミュレーション教育、ケースメソッドなどの教育法を活用して教育を実施する。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：慶應義塾web「各学部における3つの方針」ページにて公表している。 https://www.keio.ac.jp/ja/about/data/policies-faculty/)
(概要) 看護医療学部は、「人の健康と生命、看護への関心をもち、他者の苦痛や悩みを理解しようとする人」、「人を尊重し自分とは異なる立場や文化、価値観を持つ人々とコミュニケーションでき、関係を築いていこうとする人」、「ものごとを多角的にとらえ、そこにある問題に気づき、解決の方向性と対策を考え出し、それを実行する意志と行動力がある人」、「自らやると決めたことをやり遂げようとし、失敗の経験から学び、自身を成長させようとする人」、「自分の行いが人々や社会に役立つことを望み、人々や社会のよりよいあり方を追求しようとする人」を求めている。学部開設の目的である、人々と社会のため看護医療の先導者となる意欲ある人材を、一般選抜、AO入試、第2学年学士編入学試験などの多様な方法により選抜している。 求める学生像 1. 人の健康と生命、看護への関心をもち、他者の苦痛や悩みを理解しようとする。 2. 人を尊重し自分とは異なる立場や文化、価値観を持つ人々とコミュニケーションをとり、関係を築こうとする。 3. ものごとを多角的にとらえ、そこにある問題に気づき、解決の方向性と対策を考え出し、それを実行する意志と行動力がある。 4. 自らやると決めたことをやり遂げようとし、失敗の経験から学び、自身を成長させようとする。 5. 自分の行いが人々や社会に役立つことを望み、人々や社会のよりよいあり方を追求しようとする。 このような入学者を幅広く受け入れるため、(1) 一般選抜、(2) AO入試により選抜を実施する。また、大学学部を卒業した者に対し(3) 第2学年学士編入学試験を実施する。 (1) 一般選抜 外国語、数学または化学または生物、小論文により、本学科の修学に必要な学力を検

査する。面接では求める学生像への適合について総合的に評価する。

(2) A0入試

アドミッションズ・オフィスによる自由応募入試（A0入試）においては、本学部での勉学と入学を強く志望する者、本学看護医療学部の学習・研究環境を積極的に活用し、入学後の目標や構想を実現するに十分な意欲と能力を有する者を選抜する。A0入試における「A方式」では、学業を含めたさまざまな活動に積極的に取り組み、その成果が次のA～Gのうち一つ以上に該当すると自己評価するものを対象として選抜を行っている。

A 看護・医療・保健・福祉に関連した国内外での活動で見聞を広めた経験を持っている。

B 社会的な奉仕活動やその他の社会活動を通し、その成果や業績が認められている。

C コミュニケーション能力（日本語によるもの、外国語によるもの）やコンピュータ技術等の技能において優れており、高度な資格や技術を有している。

D 学術・文化・芸術・スポーツなどさまざまな分野において、研究、創作発表、コンクール、競技などの活動を通し、社会的に評価を得ている。

E 学業が優秀であり、創造的、積極的な学習姿勢を堅持している。

F 学業、人物ともに優れ、地域社会や高等学校等において指導的な役割を積極的に果たすなど、評価を得ている。

G 関心や興味を持ったテーマに関して自由研究や自主学習などの自発的な取り組みを開始し、成果をあげている。

また、A0入試の「B方式」では、高等学校での学業成績が優秀で全体の学習成績の状況4.5以上（4.5を含む）の者を対象として選抜を行っている。

書類審査により、本学部における学習に対する意欲と学力を判断したうえで、面接では求める学生像への適合について総合的に評価する。

(3) 第2学年学士編入学試験

第2学年学士編入学試験は、大学学部を卒業した者が、他分野の学びを基盤に看護学を学ぶことによって、幅広い見識と豊かな人間性を持った看護医療の先導者たる職業人となることを願って実施するものである。試験では、大学学部卒業者（学士）としての教養・知識・見識などを「小論文（英文資料を含む）」を通じて審査し、あわせて「面接」において看護への意欲・熱意を判断し、総合的に評価する。

学部等名 薬学部

教育研究上の目的

（公表方法：慶應義塾web「情報公開」ページにて公表している。

<https://www.keio.ac.jp/ja/about/assets/data/purpose-undergraduate.pdf>）

（概要）

本塾建学の精神に則り、薬学の理論と応用とを研究教授し、医療・創薬に関わる分野で求められる学識と能力を培うことを目的とする。

薬学科

薬学科は、科学の基盤をもち、医療人としての自覚のもと、高い臨床能力を発揮できる、人に優しい薬剤師の育成を目的とする。

薬科学科

薬科学科は、創薬、臨床開発、環境・生命科学などの幅広い分野における科学者の育成を目的とする。

卒業又は修了認定に関する方針

（公表方法：慶應義塾web「各学部における3つの方針」ページにて公表している。

<https://www.keio.ac.jp/ja/about/data/policies-faculty/>

(概要)

薬学科

薬学科は、科学の基盤をもち、医療人としての自覚のもと、高い臨床能力を発揮し、薬剤師として社会に貢献しうる先導的人材の養成を目標とする。加えて、教育課程において定める所定の要件を満たした学生に対し、学士（薬学）を与える。

資質・能力目標（1）

グローバル社会に対応した語学力や広い教養を身につけ、医療人としての倫理観に基づいて行動する力

資質・能力目標（2）

他者の状況や背景を理解した上で、円滑なコミュニケーションをとる力

資質・能力目標（3）

医薬品適正使用の基盤となる科学を修得し、医療・保健・福祉・公衆衛生分野において活用する力

資質・能力目標（4）

安全で質の高い、個別最適化された薬物治療および地域住民の健康維持増進を、チームの一員として主体的に実践する力

資質・能力目標（5）

薬学領域における課題を見出し、科学的視点に基づいて合理的な解決策を提案するとともに、アウトカムを適切に評価する力

資質・能力目標（6）

最新の医療・科学技術・制度に関して、主体的に情報収集して分析する能力を有し、生涯にわたって研鑽しようとする力

薬科学科

薬科学科は、創薬、臨床開発、環境・生命科学などの幅広い分野における科学者として、社会で貢献しうる先導的人材の養成を目標とする。加えて、教育課程において定める所定の要件を満たした学生に対し、学士（薬科学）を与える。

資質・能力目標（1）

グローバル社会に対応した語学力や広い教養を身につけ、創薬・生命科学研究に関わる科学者としての倫理観に基づき、他者と協調しつつ主体的に行動する力

資質・能力目標（2）

薬科学の知識・技能を修得し、創薬、臨床開発、環境・生命科学など幅広い分野に活用する力

資質・能力目標（3）

薬学領域における課題を見出し、科学的視点に基づいて合理的な解決策を提案するとともに、実験データを科学的に評価し、他者に適切に報告する力

資質・能力目標（4）

最新の科学技術・制度に関して、主体的に情報収集して分析する能力を有し、社会の発展に貢献しようとする力

教育課程の編成及び実施に関する方針

（公表方法：慶應義塾web「各学部における3つの方針」ページにて公表している。

<https://www.keio.ac.jp/ja/about/data/policies-faculty/>

(概要)

薬学科

薬学部薬学科（学士：薬学）は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる資質・能力を養成するために、教養教育科目、倫理・コミュニケーション系科目、情報系科目、基礎薬学科目、医療薬学科目、社会薬学科目、衛生薬学科目、臨床薬学科目、卒業研究から構成される教育課程を体系的に編成する。

この教育課程の編成のもと、講義、演習、アクティブラーニング、実験実習に加え、薬局・病院での実務実習、研究活動、および医療系三学部合同教育などの教育方法を組み合わせて教育を実施する。

薬科学科

薬学部薬科学科（学士：薬科学）は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる資質・能力を養成するために、教養教育科目、倫理・コミュニケーション系科目、情報系科目、基礎薬学科目、応用薬学科目、卒業研究から構成される教育課程を体系的に編成する。

この教育課程の編成のもと、講義、演習、アクティブラーニング、実験実習および研究活動などの教育方法を組み合わせて教育を実施する。

入学者の受入れに関する方針

（公表方法：慶應義塾web「各学部における3つの方針」ページにて公表している。

<https://www.keio.ac.jp/ja/about/data/policies-faculty/>）

(概要)

薬学科

求める学生像

1. 薬学科での学びに必要な確かな基礎学力を有し、知識・技能を積極的に修得する意欲をもつ人
2. 自然科学に関心をもち、人の健康と医薬品に関わる課題を探究するための論理的思考力、判断力、表現力をもつ人
3. 公正な態度で他者を尊重し、主体性をもって協働できる人
4. グローバルな視野をもち、科学者として医療・健康・福祉分野の発展に貢献することを強く志す人
5. 薬剤師の資格を取得する強い意志をもつ人

このような入学者を幅広く受け入れるため、(1) 一般選抜、(2) 学校推薦型選抜、および(3) 塾内選抜により選抜を実施します。

(1) 一般選抜

一般選抜では、薬学科における6年間の専門教育に必要な学力を有し、薬剤師としてグローバルな視点を持って医療・健康・福祉分野に貢献することを志す学生を選抜します。選考では、理科、数学および外国語の試験により専門教育に必要な基礎学力および科学的な思考力・表現力を評価します。理科の試験科目（化学）では、化学を題材として生物や物理の素養も問います。外国語の試験ではさらにグローバルな活動に求められる語学力を測ります。

(2) 学校推薦型選抜

学校推薦型選抜では、特に優れた学力、人間性を有し、薬学科での学びを通じて薬剤師資格を取得することで、医療・健康・福祉分野への貢献を強く志す学生を、高等学校長の推薦と推薦入学志願者調書および小論文に基づき選抜します。

(3) 塾内進学

慶應義塾の一貫教育によって優れた知識・能力、人間性を身につけ、薬剤師になるための高度な学びを通じて医療・健康・福祉分野で先導的な役割を担うことを強く志す

す学生を、高等学校長の推薦に基づき受入れます。

薬科学科

求める学生像

1. 薬科学科での学びに必要な確かな基礎学力を有し、知識・技能を積極的に修得する意欲をもつ人
2. 自然科学に関心をもち、生命現象や医薬品に関わる課題を探究するための論理的思考力、判断力、表現力をもつ人
3. 公正な態度で他者を尊重し、主体性をもって協働できる人
4. グローバルな視野をもち、科学者として医薬品の創製・評価、生命科学の発展に貢献することを強く志す人

このような入学者を幅広く受け入れるため、(1) 一般選抜、および(2) 塾内選抜により選抜を実施します。

(1) 一般選抜

一般選抜では、薬科学科における4年間の専門教育に必要な学力を有し、薬学領域の研究者としてグローバルな視点を持って創薬および生命科学の発展に貢献することを志す学生を選抜します。選考では、理科、数学および外国語の試験により専門教育に必要な基礎学力および科学的な思考力・表現力を評価します。理科の試験科目(化学)では、化学を題材として生物や物理の素養も問います。外国語の試験ではさらにグローバルな活動に求められる語学力を測ります。

(2) 塾内進学

慶應義塾の一貫教育によって優れた知識・能力、人間性を身につけ、大学での高度な学びを通じて創薬および生命科学分野で先導的な役割を担うことを強く志す学生を、高等学校長の推薦に基づき受入れます。

(通信教育課程)

学部等名 文学部

教育研究上の目的

(公表方法：ホームページにて公表している。

<https://www.tsushin.keio.ac.jp/faculty/flet/policy.html>)

(概要)

文学部(通信教育課程)は、本塾建学の精神に則り、哲学、美学、図書館・情報学、人間関係学、史学、文学にかかわる理論と応用を研究教授し、文化の創造と社会の発展に資する幅広い教養と深い学識および知的・倫理的・実践的能力を有した人物を育成します。すなわち「文(ことば)」にかかわる広大な領域を対象として、創立者福澤諭吉の「実学の精神」に基づき、実証的に真理を解明し問題を解決してゆく科学的な姿勢と知識および能力を培うことをめざします。

卒業又は修了認定に関する方針

(公表方法：ホームページにて公表している。

<https://www.tsushin.keio.ac.jp/faculty/flet/policy.html>)

(概要)

文学部(通信教育課程)では、学生が所属する「類」(第1類:哲学を主とするもの、第2類:史学を主とするもの、第3類:文学を主とするもの)、およびその中で扱われる専攻領域によって求められることが多少異なります。学生は、執筆を希望する卒業論文のテーマに関係する専攻領域で求められることを踏まえ、指導教員の指導のもとで卒業論文の執筆を進めます。所定の要件を満たしたと認められる学生に対して、学士の学

位が授与されます。

各類で授与される学位、およびその中で扱われる専攻領域は、文学部(通学課程)の 17 専攻と対応しており、次の通りです。

[第1類]

学士(哲学)：哲学専攻領域、倫理学専攻領域

学士(美学)：美学美術史学専攻領域

学士(図書館・情報学)：図書館・情報学専攻領域

学士(人間関係学)：社会学専攻領域、心理学専攻領域、教育学専攻領域、人間科学専攻領域

[第2類]

学士(史学)：日本史学専攻領域、東洋史学専攻領域、西洋史学専攻領域、民族学考古学専攻領域

[第3類]

学士(文学)：国文学専攻領域、中国文学専攻領域、英米文学専攻領域、独文学専攻領域、仏文学専攻領域

授与される学位ごとの卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー) および教育課程編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)は別に定めるとおりです。

授与される学位ごとの卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)／教育課程編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)

第1類 学士(哲学)、学士(美学)、学士(図書館・情報学)、学士(人間関係学)

第2類 学士(史学)

第3類 学士(文学)

【第1類】

文学部(通信教育課程)第1類では哲学を主とし、幅広い専攻領域を扱っていますが、学生は、自らが取得を希望する学位の専攻分野(学士(〇〇)を指す)に基づいて卒業論文のテーマを検討し、そのテーマに関係する専攻領域で求められることを踏まえ学修を進めるとともに、指導教員の指導のもとでテーマを掘り下げて卒業論文の執筆を進めていきます。

第1類で授与される学位の専攻分野と関係する専攻領域は次の通りです。

学士(哲学)：哲学専攻領域、倫理学専攻領域

学士(美学)：美学美術史学専攻領域

学士(図書館・情報学)：図書館・情報学専攻領域

学士(人間関係学)：社会学専攻領域、心理学専攻領域、教育学専攻領域、人間科学専攻領域

所定の必要単位を修得したうえで、それぞれの学位において、専攻領域で求められること、卒業論文執筆の重点項目などを含んだ方針は次の通りです。

学士(哲学)

[哲学専攻領域]

1. 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

〈教育目標〉

慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)を前提として、西洋哲学に対する理解を深めながら批判的思考力を養い、論理的表現力を磨くとともに、現代社会の諸問題に対して普遍的かつ自律的な視点から考察できる人材の育成を

目標とする。加えて、教育課程において定める所定の要件を満たした学生に対し、学士（哲学）の学位を授与する。

〈資質・能力目標〉

資質・能力目標（１）：古今の西洋哲学の文献を正確に理解できること。またそのために必要な語学力と批判的思考力を身につけていること。

資質・能力目標（２）：口頭発表・文章表現などにおいて説得力ある議論・論証ができるだけの論理的表現力を身につけていること。

資質・能力目標（３）：人間とそれを取り巻く世界、人間が形成してきた知識（諸科学）、信念体系、価値体系について、原理的かつ総合的な反省的考察をおこなうことができること。

資質・能力目標（４）：変転めまぐるしい現代社会の只中にあっても、問題に対してつねに原理的かつ批判的な考察を加えようとする合理的で自律的な思考主体・表現主体であると同時に、いかなる問題に直面しても、時流に流されることなく、つねに普遍的な観点に立とうとする行為主体であること。

資質・能力目標（５）：学修の最終成果である卒業論文を執筆し、専門的な領域において、先人の成果をふまえた新たな展望を提示する力。あるいは、卒業試験において、同等の内容を提示する力。

〈卒業論文における審査項目〉

卒業論文は次の審査項目を満たすものとする。

1. テーマ・問題意識が明確である。
2. 先行研究を踏まえている。
3. 方法が目的に適っている。
4. 内容が論理的で一貫している。
5. 形式が学術論文として適切である。

2. 教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

〈教育課程の編成〉

文学部（通信教育課程）哲学専攻領域（学士：哲学）は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる資質・能力目標を養成するために、総合教育科目、必修外国語科目および専門教育科目から構成される教育課程（カリキュラム）を体系的に編成する。

〈教育課程の実施〉

この教育課程の編成のもと、以下の教育方法を組み合わせて教育を実施する。

（１）基礎的かつ包括的な知識と問題意識の獲得を目指し、人文社会科学に加え、自然科学や学際的な分野も包含する多様な科目群を設置する。

（２）自ら課題を見出し、その解決を目指す能力を身につけるため、テキスト科目、スクーリング科目などにおいて、学生が主体となる能動的な授業を拡充する。

（３）知的探究への動機づけと実践力を育成するため、専門的な知識や技能を習得する科目群と学際的な科目群を共に履修する機会を設ける。

〈学修成果の評価方法〉

本専攻領域の教育課程により修得すべき資質・能力目標に対する学修成果の評価は、全塾としてのアセスメントプランの考え方のもと、各科目において定める成績評価基準等に基づいた直接的な指標により行われる。

〈資質・能力目標と教育内容との関係〉

資質・能力目標（１）：古今の西洋哲学の文献を正確に理解できること。またそのために必要な語学力と批判的思考力を身につけていること。

→総合教育科目において、通信教育課程での学びの軸となる幅広い見識、学習のため

の基礎的技能、着実な言語運用能力を身につけ、専門教育科目においてさらなる応用力を養う。

資質・能力目標（２）：口頭発表・文章表現などにおいて説得力ある議論・論証ができるだけの論理的表現力を身につけていること。

→総合教育科目、必修外国語科目での学修成果をふまえ、専門教育科目において、哲学にかかわる基礎的な知識を修得し、次第に高度な専門的学識や技能の習得を目指す。

資質・能力目標（３）：人間とそれを取り巻く世界、人間が形成してきた知識(諸科学)、信念体系、価値体系について、原理的かつ総合的な反省的考察をおこなうことができること。

→様々な科目を組み合わせて履修することにより、研究・学習課題を自ら定め、達成する能力を育成する。また、他学部の専門教育科目等の履修も可能とし、広く人文社会科学領域に関する理解を深める機会を設ける。

資質・能力目標（４）：変転めまぐるしい現代社会の只中にあっても、問題に対してつねに原理的かつ批判的な考察を加えようとする合理的で自律的な思考主体・表現主体であると同時に、いかなる問題に直面しても、時流に流されることなく、つねに普遍的な観点に立とうとする行為主体であること。

→主として卒業試験において、各自の研究テーマを探究し、ディスカッションやフィードバックを通じて自己の研究過程を客観的に評価し、より高次の問題解決に挑む力を養う。

資質・能力目標（５）：学修の最終成果である卒業論文を執筆し、専門的な領域において、先人の成果をふまえた新たな展望を提示する力。あるいは、卒業試験において、同等の内容を提示する力。

→学生は自らの関心に従って研究テーマを選択し、担当教員による指導を受けることができる。

〔倫理学専攻領域〕

1. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

〈教育目標〉

倫理学専攻領域は、慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を前提として、古今東西の思想家たちとの対話を通じて人間の生き方を探究し、思想家の精神的創作活動の場としての文化の本質を問い、そして、近現代の自然観や生命観、人間観や社会観を問い直す能力を培うことを目標とする。加えて、教育課程において定める所定の要件を満たした学生に対し、学士（哲学）の学位を授与する。

〈資質・能力目標〉

資質・能力目標（１）：人間の生き方を探究する視点と方法を確立するために必要とされる、倫理学の主要理論と理論史に関する基本的な知識を習得している。

資質・能力目標（２）：多様な倫理思想・宗教思想についての理解を深め、人間の根底に迫るとともに、多文化社会における人間の生のあり方を反省する力。

資質・能力目標（３）：科学技術の発展や環境破壊、戦争、グローバル化など、現代社会の身近な問題を手がかりにして、近現代の自然観や生命観、人間観や社会観を問い直す力。

資質・能力目標（４）：倫理学上重要な理論とそれに関する先端的研究について、一定の知識を有している。

資質・能力目標（５）：卒業論文において、人間の生き方や社会のあり方について考察すべき問いを自らの関心に従って選択し、先行研究をふまえながら、それに対する解答を首尾一貫して提示する力。

〈卒業論文における審査項目〉

学修の最終成果である卒業論文は、次の審査項目を満たすものとする。

1. テーマ・問題意識が明確である
2. 先行研究を踏まえている
3. 方法が目的に適っている
4. 内容が論理的で一貫している
5. 形式が学術論文として適切である

2. 教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

〈教育課程の編成〉

文学部（通信教育課程）倫理学専攻領域（学士：哲学）は「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる資質・能力目標を養成するために、総合教育科目、必修外国語科目および専門教育科目から構成される教育課程（カリキュラム）を体系的に編成する。

〈教育課程の実施〉

この教育課程の編成のもと、以下の教育方法を組み合わせて教育を実施する。

（１）基礎的かつ包括的な知識と問題意識の獲得を目指し、多様な科目群を設置する。

（２）自ら課題を見出し、その解決を目指す能力を身につけるため、テキスト科目、スクーリング科目などにおいて、学生が主体となる能動的な授業を拡充する。

（３）知的探究への動機づけと実践力を育成するため、専門的な知識や技能を習得する科目群と学際的な科目群を共に履修する機会を設ける。

〈学修成果の評価方法〉

本専攻領域の教育課程により修得すべき資質・能力目標に対する学修成果の評価は、全塾としてのアセスメントプランの考え方のもと、各科目において定める成績評価基準等に基づいた直接的な指標により行われる。

〈資質・能力目標と教育内容との関係〉

資質・能力目標（１）：人間の生き方を探究する視点と方法を確立するために必要とされる、倫理学の主要理論と理論史に関する基本的な知識を習得している。

→倫理学の主要理論と理論史に関する基本的な知識を習得するための科目として、「倫理学」を設置する。

資質・能力目標（２）：多様な倫理思想・宗教思想についての理解を深め、人間の根底に迫るとともに、多文化社会における人間の生のあり方を反省する力。

→多様な倫理思想・宗教思想の理解を深めるための科目として、「倫理学（専門）」などを設置する。

資質・能力目標（３）：科学技術の発展や環境破壊、戦争、グローバル化など、現代社会の身近な問題を手がかりにして、近現代の自然観や生命観、人間観や社会観を問い直す力。

→現代社会の身近な問題を手がかりにして近現代の自然観や生命観、人間観や社会観を問い直すための科目として、「現代倫理学の諸問題」を設置する。

資質・能力目標（４）：倫理学上重要な理論とそれに関する先端的研究について、一定の知識を有している。

→倫理学上重要な諸理論を詳細にわたって理解し、その先端的研究に触れるための科目として、「倫理学特殊」を設置する。

資質・能力目標（５）：卒業論文において、人間の生き方や社会のあり方について考察すべき問いを自らの関心に従って選択し、先行研究をふまえながら、それに対する解答を首尾一貫して提示する力。

→卒業論文を必須として課す。学生は自らの関心に従って研究テーマを選択し、担当教員による指導を受けることができる。

学士（美学）

〔美学美術史学専攻領域〕

1. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

〈教育目標〉

慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を前提として、古今東西の美と芸術に関する様々な知識と研究方法を修得しながら、優れたコミュニケーション能力を有し、人間を尊重し、自らと他者を理解することによって多様な価値を認める深い人間性を養う。また、さまざまな分野でリーダーシップを発揮し、社会の各方面に貢献できる人材となることを目標とする。加えて、教育課程において定める所定の要件を満たした学生に対し、学士（美学）の学位を授与する。

〈資質・能力目標〉

資質・能力目標（１）：美学、芸術学、美術史学、音楽学、アート・マネジメント等、美と芸術に関する各分野の学問に関して、本質的で幅広い知識と教養を身につける。

資質・能力目標（２）：芸術の諸分野についての基礎的教養を身につけ、あわせてイメージやパフォーマンス等の非言語的対象を把握し、それを適切に言語化する基本的リテラシーを身につける。

資質・能力目標（３）：研究テーマに応じて適切な情報の収集と分析を行い、科学的・論理的に思考し、批判的に考えることができる力。

資質・能力目標（４）：適確な文章をもって、学問的な評価に耐えうる卒業論文を執筆する力。

〈卒業論文における審査項目〉

学修の最終成果である卒業論文は次の審査項目を満たすものとする。

1. テーマ・問題意識が明確である。
2. 先行研究を踏まえている。
3. 方法が目的に適っている。
4. 内容が論理的で一貫している。
5. 形式が学術論文として適切である。

2. 教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

〈教育課程の編成〉

文学部（通信教育課程）美学美術史学専攻領域（学士：美学）は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる資質・能力を養成するために、専門教育科目から構成される教育課程（カリキュラム）を体系的に編成する。

〈教育課程の実施〉

この教育課程の編成のもと、以下の教育法を組み合わせ教育を実施する。

（１）美学・芸術学、美術史学と音楽学などの芸術諸分野にわたる多様な科目群を設置することで、美と芸術に関する基礎的かつ包括的な知識と問題意識の獲得を目指す。

（２）自ら課題を見出し、その解決を目指す能力を身につけるため、講義科目において、学生が主体となる能動的な授業を拡充する。

（３）知的探求と実践力の育成のために、所属する類の科目を必ず履修するとともに、他の類の専門教育科目を選択科目として履修する機会を設ける。

〈学修成果の評価方法〉

本専攻領域の教育課程により修得すべき資質・能力目標に対する学修成果の評価は、全塾としてのアセスメントプランの考え方のもと、各科目において定める成績評価基準等に基づいた直接的な指標により行われる。

〈資質・能力目標と教育内容との関係〉

資質・能力目標（１）：美学、芸術学、美術史学、音楽学、アート・マネジメント等、美と芸術に関する各分野の学問に関して、本質的で幅広い知識と教養を身につける。

→美学や芸術学、芸術の諸分野に関する概説と各論等、多様な授業を設置する。

資質・能力目標（２）：芸術の諸分野についての基礎的教養を身につけ、あわせてイメージやパフォーマンス等の非言語的対象を把握し、それを適切に言語化する基本的リテラシーを身につける。

→芸術の諸分野に関する概論、概説、各論等に加え、卒業論文指導において、基礎的な専門用語や概念を理解し、作品記述の方法を身につけることで、非言語的対象を言語化するための基本的リテラシーを養う。

資質・能力目標（３）：研究テーマに応じて適切な情報の収集と分析を行い、科学的・論理的に思考し、批判的に考えることができる力。

→卒業論文の取り組みにおいて、基本文献や研究方法、資料の扱い方などを学び、論文執筆の実践を通じて、情報収集の方法と分析、科学的な思考能力を養う。

資質・能力目標（４）：適確な文章をもって、学問的な評価に耐えうる卒業論文を執筆する力。

→卒業論文の担当教員の下で研究・発表を行い、卒業論文を執筆する。

学士（図書館・情報学）

〔図書館・情報学専攻領域〕

1. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

〈教育目標〉

慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を前提として、個人や機関、団体などにより生産され記録された経験や情報、知識について、その流通・組織化・提供・利用・保存・制度など諸側面の基礎的な知識の学修を通じて、情報という観点から問題を発見し自ら解決できる総合的な能力を習得することを目標とする。加えて、教育課程において定める所定の要件を満たした学生に対し、学士（図書館・情報学）の学位を授与する。

〈資質・能力目標〉

資質・能力目標（１）：特定テーマから広範な分野にいたるまで文献と情報を検索、収集、分析する能力。

資質・能力目標（２）：コンピュータをはじめ情報機器・情報メディアを活用する情報処理能力。

資質・能力目標（３）：情報専門職としての基盤形成。

資質・能力目標（４）：日本語による専門文献の読解能力。

資質・能力目標（５）：論理的な文章表現能力。

資質・能力目標（６）：学修の最終成果である卒業論文を執筆し、専門的な領域において、先人の成果をふまえた新たな展望を提示する力。

〈卒業論文における審査項目〉

卒業論文は以下の審査項目を満たすものとする。

1. テーマ・問題意識が明確である。
2. 先行研究を踏まえている。
3. 方法が目的に適っている。
4. 内容が論理的で一貫している。
5. 形式が学術論文として適切である。

2. 教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

〈教育課程の編成〉

文学部図書館・情報学専攻領域（学士：図書館・情報学）は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる資質・能力を養成するために、総合教育科目、必修外国語科目および専門教育科目から構成される教育課程（カリキュラム）を体系的に編成する。

〈教育課程の実施〉

この教育課程の編成のもと、以下の教育法を組み合わせる教育を実施する。

（１）基礎的かつ包括的な知識と問題意識の獲得を目指し、人文社会科学に加え、自然科学や学際的な分野も包含する多様な科目群を設置する。また、図書館・情報学専攻領域以外が設置する専門教育科目の履修を通して、幅広い視野と知識の習得を図る。

（２）知的探究への動機づけと実践力を育成するため、専門的な知識や技能を習得する科目群と学際的な科目群を共に履修する機会を設ける。

〈学修成果の評価方法〉

本専攻領域の教育課程により修得すべき資質・能力目標に対する学修成果の評価は、全塾としてのアセスメントプランの考え方のもと、各科目において定める成績評価基準等に基づいた直接的な指標により行われる。

〈資質・能力目標と教育内容との関係〉

資質・能力目標（１）：特定テーマから広範な分野にいたるまで文献と情報を検索、収集、分析する能力。

→総合教育科目、必修外国語科目において、学士課程での学びの軸となる幅広い見識、学習のための基礎的技能を身につけたうえで、専門教育科目において図書館・情報学にかかわる文献と情報を検索、収集、分析する専門的学識や技能の習得を目指す。

資質・能力目標（２）：コンピュータをはじめ情報機器・情報メディアを活用する情報処理能力。

→専門教育科目において、情報処理、情報管理などの諸活動および情報サービスに必要な不可欠な情報検索と情報組織化の基本的な考え方と技術について学修する。また、情報メディアの社会的制度、技術特性、人間の認知と行動を踏まえながら、情報メディアが社会で果たす役割について学修する。

資質・能力目標（３）：情報専門職としての基盤形成。

→専門教育科目において、図書館や情報提供機関のサービスと運営を中心に、図書館司書等に必要とされる、社会において知識と情報を活用するための仕組みについて学修する。

資質・能力目標（４）：日本語による専門文献の読解能力。

→専攻設置の専門教育科目において、図書館・情報学にかかわる日本語による専門的な文献を読解する能力を育成する。

資質・能力目標（５）：論理的な文章表現能力。

→総合教育科目、必修外国語科目での学習成果を踏まえ、卒業論文指導において、基礎的な知識を修得し、次第に高度な専門的学識や技能の習得を目指す。

資質・能力目標（６）：学修の最終成果である卒業論文を執筆し、専門的な領域において、先人の成果をふまえた新たな展望を提示する力。

→担当教員の指導のもと、課題設定から課題解決、さらに成果のまとめまでを含めた卒業研究を課す。卒業研究は、複数教員による審査および審査項目の標準化などの指導体制のもとで実施することにより、総合的な能力の育成を図る。

学士（人間関係学）

〔社会学専攻領域〕

1. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

〈教育目標〉

慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を前提として、社会学および社会心理学、文化人類学の知識と方法ならびに問題意識を融合的に活用し、自立した市民および職業人として個人と社会のために協働できる人材の育成を目標とする。加えて、教育課程において定める所定の要件を満たした学生に対し、学士（人間関係学）の学位を授与する。

〈資質・能力目標〉

資質・能力目標（１）：社会学、社会心理学、文化人類学における主要な学説についての基礎的な理解を持ち、日本語や外国語で適切に説明し、コミュニケーションを行う力。

資質・能力目標（２）：社会学、社会心理学、文化人類学のそれぞれの視点から、さらにはそれらを融合した視点から、人間、社会、文化にかかわる諸事象を捉え、分析し、説明する学問的成果についての理解を持ち、それを社会問題の解決に応用する力。

資質・能力目標（３）：質的・量的社会調査の方法を理解し、複数の方法を用いて資料の収集・整理・分析・解釈を行い、その内容について効果的なプレゼンテーションを行う力。

資質・能力目標（４）：以上のような知識に加え、人間、社会、文化にかかわる諸事象の様々な側面を探究し、その探究の過程と結果について適切に表現する力。

〈卒業論文における審査項目〉

卒業論文は次の審査項目を満たすものとする。

- １．テーマ・問題意識が明確である。
- ２．先行研究を踏まえている。
- ３．方法が目的に適っている。
- ４．内容が論理的で一貫している。
- ５．形式が学術論文として適切である。

2. 教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

〈教育課程の編成〉

文学部（通信教育課程）社会学専攻領域（学士：人間関係学）は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる資質・能力目標を養成するための教育課程（カリキュラム）を体系的に編成する。

〈教育課程の実施〉

この教育課程の編成のもと、以下の教育方法を組み合わせて教育を実施する。

（１）基礎的かつ包括的な知識と問題意識の獲得を目指し、社会学、社会心理学、文化人類学の概論科目に加え、より専門的な各論科目や多様な特殊科目を設置する。

（２）自ら課題を見出し、その解決を目指す能力を身につけるため、学説および理論を学べる科目に加え、主要な社会調査法を身につける科目を置く。

〈学修成果の評価方法〉

本専攻領域の教育課程により修得すべき資質・能力目標に対する学修成果の評価は、全塾としてのアセスメントプランの考え方のもと、各科目において定める成績評価基準に基づいた直接的な指標により行われる。

〈資質・能力目標と教育内容との関係〉

資質・能力目標（１）：社会学、社会心理学、文化人類学における主要な学説についての基礎的な理解を持ち、日本語や外国語で適切に説明し、コミュニケーションを行う力。

→総合教育科目、必修外国語科目で身につけた学習の基礎的技能、言語運用能力をふ

まえ、社会学、社会心理学、文化人類学における主要な学説についての基礎的な知識を着実に身につけるための科目を置き、より専門的な学習を行うための基盤を形成する。

資質・能力目標（２）：社会学、社会心理学、文化人類学のそれぞれの視点から、さらにはそれらを融合した視点から、人間、社会、文化にかかわる諸事象を捉え、分析し、説明する学問的成果についての理解を持ち、それを社会問題の解決に応用する力。

→上記の学修成果をふまえ、人間、社会、文化の諸事象に関する社会学、社会心理学、文化人類学からの学問的成果を修得するための幅広い科目を置き、３つの学問に対する個別的学习のみならず、２つ以上の学問分野の融合的な理解を導き、社会問題への多角的な応用力を養う。

資質・能力目標（３）：質的・量的社会調査の方法を理解し、複数の方法を用いて資料の収集・整理・分析・解釈を行い、その内容について効果的なプレゼンテーションを行う力。

→専門教育科目において、人間、社会、文化の諸事象に関する様々な資料を収集・整理・分析・解釈するための妥当で信頼できる方法および技法を学べる科目を置き、自ら立てた問いを実証的に探求する機会を設ける。

資質・能力目標（４）：以上のような知識に加え、人間、社会、文化にかかわる諸事象の様々な側面を探求し、その探求の過程と結果について適切に表現する力。

→より限定的な領域における具体的な問題をめぐり、対話的、実習的、実践的に学習するよう指導し、卒業論文の作成を支援していく。

〔心理学専攻領域〕

1. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

〈教育目標〉

慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を前提として、心や行動を科学的に捉え、社会における人々の行動や反応を客観的に把握し、その背後にある原因や機構を深く理解することのできる人材の育成を目標とする。加えて、教育課程において定める所定の要件を満たした学生に対し、学士（人間関係学）の学位を授与する。

〈資質・能力目標〉

資質・能力目標（１）：科学的視点による心や行動の捉え方、さまざまな現象の数値化、データ解析方法などの基礎を身につける。

資質・能力目標（２）：実験心理学に関する諸分野における専門的な基礎知識を身に付けるとともに、それらの実践・臨床応用的な視点を学ぶために、実験心理学以外の心理学関連科目の履修を通して、心をより俯瞰的な視野から捉えるスキルを修得する。

資質・能力目標（３）：グローバルな人材育成を目指し、国際的なジャーナルに掲載される論文を読み込む能力や、そこで必要とされる高い思考力を身につける。

資質・能力目標（４）：卒業論文の指導におけるディスカッションを通して高いレベルのプレゼンテーション能力を身につける。

資質・能力目標（５）：卒業論文の作成を通して、社会において役立つ、計画を立案し管理、実行する方法を学び、文章表現力や構成力を修得する。

〈卒業論文における審査項目〉

卒業論文は次の審査項目を満たすものとする。

- １．テーマ・問題意識が明確である。
- ２．先行研究を踏まえている。
- ３．方法が目的に適っている。

4. 内容が論理的で一貫している。
5. 形式が学術論文として適切である。

2. 教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

〈教育課程の編成〉

文学部（通信教育課程）心理学専攻領域（学士：人間関係学）は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる資質・能力を養成するために、総合教育科目、必修外国語科目および専門教育科目から構成される教育課程（カリキュラム）を体系的に編成する。

〈教育課程の実施〉

この教育課程の編成のもと、アクティブラーニングやPBLなどの教育法を組み合わせ教育を実施する。

（１）基礎的かつ包括的な知識と問題意識の獲得を目指し、人文社会科学に加え、自然科学や学際的な分野も包含する多様な科目群を設置する。

（２）自ら課題を見出し、その解決を目指す能力を身につけるため、講義科目、演習科目、実験科目などにおいて、学生が主体となる能動的な授業を拡充する。

（３）知的探究への動機づけと実践力を育成するため、専門的な知識や技能を習得する科目群と学際的な科目群を共に履修する機会を設ける。

〈学修成果の評価方法〉

本専攻領域の教育課程により修得すべき資質・能力目標に対する学修成果の評価は、全塾としてのアセスメントプランの考え方のもと、各科目において定める成績評価基準等に基づいた直接的な指標により行われる。

〈資質・能力目標と教育内容との関係〉

資質・能力目標（１）：科学的視点による心や行動の捉え方、さまざまな現象の数値化、データ解析方法などの基礎を身につける。

→データ解析能力や実験技法の基礎を学ぶ専門教育科目を組み合わせ履修することにより、研究・学習課題を自ら定め、達成する能力を育成する。

資質・能力目標（２）：実験心理学に関する諸分野における専門的な基礎知識を身に付けるとともに、それらの実践・臨床応用的な視点を学ぶために、実験心理学以外の心理学関連科目の履修を通して、心をより俯瞰的な視野から捉えるスキルを修得する。

→心理学に関する専門教育科目を組み合わせ履修することにより、心理学の基礎および応用的な視点を育む。また、心理学専攻領域外の専門教育科目等の履修も可能とし、広く人文社会科学領域に関する理解を深める機会を設ける。

資質・能力目標（３）：グローバルな人材育成を目指し、国際的なジャーナルに掲載される論文を読み込む能力や、そこで必要とされる高い思考力を身につける。

→総合教育科目、必修外国語科目において、学士課程での学びの軸となる幅広い見識、学習のための基礎的技能、着実な言語運用能力を身につけ、専門教育科目においてさらなる応用力を養う。

資質・能力目標（４）：研究会や発表会におけるディスカッションを通して高いレベルのプレゼンテーション能力を身につける。

→主として卒業論文の指導において、各自の研究テーマを探求し、ディスカッションやフィードバックを通じて自己の研究課程を客観的に評価し、より高次の問題解決に挑む力を養う。

資質・能力目標（５）：卒業論文の作成を通して、社会において役立つ、計画を立案し管理、実行する方法を学び、文章表現力や構成力を修得する。

→卒業論文の指導や担当指導教員による指導を通じて、各自の卒業研究を立案・管理・実行する方法を学び、卒業論文にかかるディスカッションやフィードバックを通じて文章表現力や構成力を養う。

[教育学専攻領域]

1. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

〈教育目標〉

慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を前提として、「教育」という視座から人間と社会の諸問題を学問的に探究することのできる人物の育成を目標とする。加えて、教育課程において定める所定の要件を満たした学生に対し、学士（人間関係学）の学位を授与する。

〈資質・能力目標〉

資質・能力目標（１）：教育学の基礎に関する概括的知識とともに、教育学の主軸分野である教育哲学、教育史学、教育心理学に関する基本的知識を獲得している。

資質・能力目標（２）：教育に関する諸問題を学問的に探究するための方法論の基礎を身につけている。

資質・能力目標（３）：「教育」という視座から考察すべき学問的問いを自らの関心に即して設定し、人間と社会の様々な問題の探究や解明を試みている。

資質・能力目標（４）：学修の最終成果である卒業論文を執筆し、専門的な領域において、先人の成果をふまえた新たな展望を提示する力を身につけている。

〈卒業論文における審査項目〉

学修の最終成果である卒業論文は次の審査項目を満たすものとする。

- １．テーマ・問題意識が明確であり、教育学上重要な問題について批判的に検討している。
- ２．教育学上重要な主要理論、研究遂行に不可欠な先行研究を踏まえている。
- ３．卒業論文の研究方法が、教育に関する諸問題を学問的に探究し、自身の設定した目的を達成するために適切かつ妥当である。
- ４．卒業論文の内容が論理的で一貫している。
- ５．論文の形式が学術論文として適切である。

2. 教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

〈教育課程の編成〉

教育学専攻領域（学士：人間関係学）は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる資質・能力を養成するために、総合教育科目、必修外国語科目および専門教育科目から構成される教育課程（カリキュラム）を体系的に編成する。

〈教育課程の実施〉

この教育課程の編成のもと、以下の教育方法を組み合わせて教育を実施する。

- （１）基礎的かつ包括的な知識と問題意識の獲得をめざす科目を設置する。
- （２）教育学の重要な課題を自ら見出し、その解決を目指すための専門的な知識や技能を身につけるための科目を設置する。
- （３）知的探究への動機づけと実践力を育成するため、先端的研究、理論、方法に触れるための科目を設置する。

〈学修成果の評価方法〉

本専攻領域の教育課程により修得すべき資質・能力目標に対する学修成果の評価は、全塾としてのアセスメントプランの考え方のもと、各科目において定める成績評価基準等に基づいた直接的な指標により行われる。

〈資質・能力目標と教育内容との関係〉

資質・能力目標（１）：教育学の基礎に関する概括的知識とともに、教育学の主軸分

野である教育哲学、教育史学、教育心理学に関する基本的知識を獲得している。
→教育学の概説科目として「教育学」、教育学の主要な学問領域を学修するための科目として「教育思想史」（教育哲学分野）、「教育史」（教育史分野）、「教育心理学」（教育心理学分野）を設置し、教育に関する基本的・概括的知識を習得する。

資質・能力目標（２）：教育に関する諸問題を学問的に探究するための方法論の基礎を身につけている。

→「心理・教育統計学」（分析方法の修得）を設置し、教育学研究に関する専門的な方法論を習得する。

資質・能力目標（３）：「教育」という視座から考察すべき学問的問いを自らの関心に即して設定し、人間と社会の様々な問題の探究や解明を試みている。

→専門教育科目として、教育学の主軸分野に関わる「教育学概論」、「教育学特殊」、「教育心理学概論」を設置し、教育学上重要な諸理論についてより専門的に理解し、人間と社会にかかわる諸問題の探究や解明を試みる機会を設ける。

資質・能力目標（４）：学修の最終成果である卒業論文を執筆し、専門的な領域において、先人の成果をふまえた新たな展望を提示する力を身につけている。

→卒業論文指導により、各自の研究テーマを探求し、ディスカッションやフィードバックを通じて自己の研究過程を客観的に評価し、より高次の問題解決に挑む力を養う。

〔人間科学専攻領域〕

1. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

〈教育目標〉

慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を前提として、心理学・社会心理学・社会学・文化人類学の知識および方法論を修得しながら、人間についての総合的・多元的な理解を行い、現代社会における人間・社会・文化に関するさまざまな問題を分析・解決できる人材を育成することを目標とする。加えて、教育課程において定める所定の要件を満たした学生に対し、学士（人間関係学）の学位を授与する。

〈資質・能力目標〉

資質・能力目標（１）：心理学・社会心理学・社会学・文化人類学の理論と方法についての基礎知識を修得していること。

資質・能力目標（２）：人間行動についての定量的・行動科学的な分析と、定性的・質的な分析の両方を行いうる能力、それらの能力を用いて自分で具体的な問題を分析できる能力を修得していること。

資質・能力目標（３）：分析結果をわかりやすく他者に説明・提示し議論できるプレゼンテーション能力と、それらを文章化して表現できる論文作成能力を修得していること。

資質・能力目標（４）：学修の最終成果である卒業論文を執筆し、専門的な領域において、先人の成果をふまえた新たな展望を提示する能力を修得していること。

〈卒業論文における審査項目〉

卒業論文あるいは卒業試験は、次の審査項目を満たすものとする。

1. テーマ・問題意識が明確である。
2. 先行研究を踏まえている。
3. 方法が目的に適っている。
4. 内容が論理的で一貫している。
5. 形式が学術論文として適切である。

2. 教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

〈教育課程の編成〉

文学部（通信教育課程）人間科学専攻領域（学士：人間関係学）は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる資質・能力目標を養成するために、総合教育科目ならびに専門教育科目から構成される教育課程（カリキュラム）を体系的に編成する。

〈教育課程の実施〉

この教育課程の編成のもと、以下の教育方法を組み合わせて教育を実施する。

（１）人間を多角的にとらえるための認識論と方法論の基礎を学ぶために、総合教育科目に「社会学」「社会心理学」「心理学」「統計学」、専門教育科目に「文化人類学」を置く。

（２）心理学・社会心理学・社会学・文化人類学の理論と方法の基礎を学ぶために、専門教育科目に「社会学（専門）」、「社会心理学（専門）」、「文化人類学」を置く。

（３）人間科学に含まれる個別のテーマについて専門的な知識を修得すると同時に、自らの関心を深化させるための専門教育科目群として「心理学特殊」、「社会学特殊」、「社会心理学特殊」を置く。

（４）学修成果を総動員し、「卒業論文」を通じて、学生が自らの関心に基づいて研究論文の作成を行う。

〈学修成果の評価方法〉

本専攻領域の教育課程により修得すべき資質・能力目標に対する学修成果の評価は、全塾としてのアセスメントプランの考え方のもと、各科目において定める成績評価基準等に基づいた直接的な指標により行われる。

〈資質・能力目標と教育内容との関係〉

資質・能力目標（１）：心理学・社会心理学・社会学・文化人類学の理論と方法についての基礎知識を修得していること。

→総合教育科目「社会学」「社会心理学」「心理学」、専門教育科目「文化人類学」を通じて各分野の理論と方法について基礎知識を修得する。

資質・能力目標（２）：人間行動についての定量的・行動科学的な分析と、定性的・質的な分析の両方を行いうる能力、それらの能力を用いて自分で具体的な問題を分析できる能力を修得していること。

→専門教育科目群（「社会学（専門）」「社会学特殊」「社会心理学（専門）」「社会心理学特殊」「文化人類学」）を通じて、より専門的な知識と分析方法を学び、「卒業論文」における研究論文の作成を通じて、具体的な問題の分析能力を修得する。

資質・能力目標（３）：分析結果をわかりやすく他者に説明・提示し議論できるプレゼンテーション能力と、それらを文章化して表現できる論文作成能力を修得していること。

→「卒業論文」を通じて分析結果を理解しプレゼンテーションする能力を身に付け、発展させる。さらに研究論文執筆によって、分析結果を文章化して表現する論文作成能力を修得する。

資質・能力目標（４）：学修の最終成果である卒業論文を執筆し、専門的な領域において、先人の成果をふまえた新たな展望を提示する能力を修得していること。あるいは、卒業試験において、同等の内容を提示する能力を修得していること。

→「卒業論文」を通じた研究論文の執筆によって修得する。

【第2類】

文学部（通信教育課程）第2類では史学を主とした専攻領域を扱っており、所定の条件を満たした際には、「学士（史学）」の学位が授与されます。学生は、自らが希望する卒業論文のテーマを検討し、そのテーマに関係する専攻領域で求められることを

踏まえ学修を進めるとともに、指導教員の指導のもとでテーマを掘り下げて卒業論文の執筆を進めていきます。

第2類で授与される学位の専攻分野と関係する専攻領域は次の通りです。

学士（史学）：日本史学専攻領域、東洋史学専攻領域、西洋史学専攻領域、民族考古学専攻領域

所定の必要単位を修得したうえで、それぞれの専攻領域で求められること、卒業論文執筆の重点項目などを含んだ方針は次の通りです。

学士（史学）

〔日本史学専攻領域〕

1. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

〈教育目標〉

慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を前提として、歴史学を中心として広く様々な分野に即して学問の方法を学びつつ、特に日本史学の分野において、引き出した歴史情報を分析して新たな史実を実証的に掘り起こし、その成果を論理的に構成して発表する能力を培うことを目標とする。

そのため日本史学もしくはその関連分野の研究を内容とする日本語の卒業論文を執筆し、さらに卒業論文のテーマに関連する領域については包括的な専門知識を有し、その領域の研究に貢献をすることができる能力を培うことを目標とする。

加えて教育課程において定める所定の要件を満たした学生に対し、学士（史学）の学位を授与する。

〈資質・能力目標〉

資質・能力目標（1）：通時代的な歴史像の把握の下に研究領域全般に関する知識を修得し、古文書などの史料から歴史情報を引き出すための史料批判を行い、史料を読解する力。

資質・能力目標（2）：学修の成果として、日本史学もしくはその関連分野の研究を内容とする卒業論文を執筆し、その領域の研究に貢献をすることができる力。

資質・能力目標（3）：生のデータの信頼性を確認した上で、それらを分析して論理的妥当性が認められる推論を導き出し、万人の納得を得られるような形でまとめ発表する力。

〈卒業論文における審査項目〉

学修の最終成果である卒業論文（卒業試験）は次の審査項目を満たすものとする。

1. テーマ・問題意識が明確である。
2. 先行研究を踏まえている。
3. 史料の取り扱いが適切であり、方法が目的に適っている。
4. 内容が論理的で一貫している。
5. 形式が学術論文として適切である。

2. 教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

〈教育課程の編成〉

文学部（通信教育課程）日本史学専攻領域（学士：史学）では、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる資質・能力を養成するにあたり、日本史の全体像を捉え、より深く理解するために「日本史概説」、「日本史特殊」、「古文書学」によって専門的領域を学ぶとともに、「史学概論」、「東洋史概説」、「西洋史概説」、「考古学」、「民族学」などから構成される日本史以外の学問領域についても学ぶことができるように、教育課程（カリキュラム）を体系的に編成する。

〈教育課程の実施〉

この教育課程の編成のもと、以下の教育方法を組み合わせて教育を実施する。

(1) 日本史の全体像を捉えるための概説的な科目や、個別の時代やテーマに関する理解を深めるための科目を、スクーリングによる講義科目や、テキストに基づき学生が主体的に学ぶ科目として設置する。

(2) 史料にアプローチし、学生が主体的に課題を見出し、その解決を目指すために、

幅広く各時代の史料に基づく研究成果を学ぶ科目を、スクーリング科目やテキスト科目として設置し、それを通して学生が主体的・能動的に研究する授業を拡充する。

(3) 歴史学の学問体系について学ぶために、「史学概論」や、日本史以外の歴史学の学問的方法を体験するための概説など、広く様々な分野の学問体系に触れるための科目を履修する機会を設ける。

〈学修成果の評価方法〉

本専攻領域の教育課程により修得すべき資質・能力目標に対する学修成果の評価は、全塾としてのアセスメントプランの考え方のもと、各科目において定める成績評価基準等に基づいた直接的な指標により行われる。

〈資質・能力目標と教育内容との関係〉

資質・能力目標(1)：通時代的な歴史像の把握の下に研究領域全般に関する知識を修得し、古文書などの史料から歴史情報を引き出すための史料批判を行い、史料を読解する力。

→日本史の全体像を捉えるための「日本史概説」や、個別の時代やテーマに関する理解を深めるための「日本史特殊」を開講する。また、幅広く各時代の史料に関する基礎知識を講義する「古文書学」や、それぞれの時代の研究成果を学び、研究への取り組みかたを学ぶ機会を、スクーリング科目・テキスト科目として設ける。

資質・能力目標(2)：学修の成果として、日本史学もしくはその関連分野の研究を内容とする卒業論文を執筆し、その領域の研究に貢献をすることができる力。

→論文執筆の能力を養うために、指導教員による指導に基づき、自らが主体的に研究した内容を報告し、それに基づく討論を経験することで、その領域の研究に貢献をすることができる力を涵養することを目指す。

資質・能力目標(3)：生のデータの信頼性を確認した上で、それらを分析して論理的妥当性が認められる推論を導き出し、万人の納得を得られるような形でまとめ発表する力。

→幅広く各時代の史料に関する基礎知識を講義する「古文書学」や、自らが主体的に取り組む研究について指導教員よりの指導を受け、データに基づき論理的な推論を発表する能力を育成する。

〔東洋史学専攻領域〕

1. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

〈教育目標〉

慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を前提として、アジア・中東諸地域の歴史や文化、現状に対する内在的かつ客観的な視座、着実な外国語の運用能力、歴史学を中心とする人文社会科学の分野横断的な知見などを備え、それらをもとに多文化間の相互理解の促進に貢献できる人物の養成を目標とする。加えて、教育課程において定める所定の要件を満たした学生に対し、学士（史学）の学位を授与する。

〈資質・能力目標〉

資質・能力目標(1)：アジア・中東諸地域の立場や価値観を尊重しながら、その歴

史や文化、現状に向き合う視座を身につけている。

資質・能力目標（２）：歴史学に加えて、隣接する人文社会科学の知見や手法もふまえて、アジア・中東諸地域の歴史や文化、現状を実証的かつ学際的な見地から理解する能力を身につけている。

資質・能力目標（３）：学修の最終成果である卒業論文を執筆し、専門的な領域において、先人の成果をふまえた新たな展望を提示する能力を身につけている。

〈卒業論文における審査項目〉

卒業論文は次の審査項目を満たすものとする。

1. テーマ・問題意識が明確である。
2. 先行研究を踏まえている。
3. 方法が目的に適っている。
4. 内容が論理的で一貫している。
5. 形式が学術論文として適切である。

2. 教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

〈教育課程の編成〉

文学部第2類東洋史学専攻領域（学士：史学）は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる資質・能力を養成するために、総合教育科目、必修外国語科目および専門教育科目から構成される教育課程（カリキュラム）を体系的に編成する。

〈教育課程の実施〉

この教育課程の編成のもと、以下の教育法を組み合わせる教育を実施する。

（１）アジア・中東諸地域に関する基礎的かつ包括的な知識と問題意識の獲得を目指し、総合教育科目、専門教育科目において、歴史学を主として学際的な内容を含む多様な科目群を設置する。

（２）アジア・中東諸地域の歴史と現状に関して自ら課題を発見し、その解決を目指す能力を身につけるため、主に面接授業（スクーリング）において、事前学習型授業のような学生が主体となる能動的な授業を拡充する。

（３）アジア・中東諸地域に関する知的探究への動機づけと実践力を育成するため、専門教育科目において、専門的な知識や技能を習得する機会を設ける。

〈学修成果の評価方法〉

本専攻領域の教育課程により修得すべき資質・能力目標に対する学修成果の評価は、全塾としてのアセスメントプランの考え方のもと、各科目において定める成績評価基準等に基づいた直接的な指標により行われる。

〈資質・能力目標と教育内容との関係〉

資質・能力目標（１）：アジア・中東諸地域の立場や価値観を尊重しながら、その歴史や文化、現状に向き合う視座を身につけている。

→主に専門教育科目において、アジア・中東諸地域の歴史や文化、現状に関する基礎的な知識および専門的な学識を修得し、時代により異なるアジア・中東諸地域の立場や価値観を尊重する力を養う。

資質・能力目標（２）：歴史学に加えて、隣接する人文社会科学の知見や手法もふまえて、アジア・中東諸地域の歴史や文化、現状を実証的かつ学際的な見地から理解する能力を身につけている。

→東洋史学専攻領域以外の第2類の専門教育科目の履修を求めることに加え、第2類以外の専門教育科目の履修を可能とすることにより、歴史学全般および歴史学以外の人文社会科学に関する知見や手法を修得する機会を設ける。

資質・能力目標（３）：学修の最終成果である卒業論文を執筆し、専門的な領域において、先人の成果をふまえた新たな展望を提示する能力を身につけている。

→専門教育科目での学修成果をふまえ、学生は自らが設定した研究テーマを主体的に追究するとともに、指導教員による卒業論文指導を通じて当該研究テーマに関する客観的な視点を獲得しながら、新たな展望の提示に挑む力を養う。

〔西洋史学専攻領域〕

1. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

〈教育目標〉

慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を前提として、西洋世界およびそこから強く影響を受けた地域の過去を学ぶことを通して、現代の「国際社会」の多くの側面を構成する価値観を理解するために十分な知識を獲得し、ひいては歴史学を通して現代社会の深層を見つめる知見と能力を得ることを目標とする。加えて、教育課程において定める所定の要件を満たした学生に対し、学士（史学）の学位を授与する。

〈資質・能力目標〉

資質・能力目標（１）：西洋世界およびそこから強く影響を受けた地域の歴史についての包括的な知識を持ち、現代の「国際社会」を構成する多様な価値観を理解する力。

資質・能力目標（２）：西洋史学の学術的な専門知識と、史料批判・読解などの歴史学の方法論を身につけたうえで、論理的な思考を行い、専門分野および社会における課題を導く力。

資質・能力目標（３）：自ら情報を収集する力、それを学問的に分析するために必要な外国語力と方法論を鍛え、自ら設定した課題に取り組み、効果的なプレゼンテーションを行う力。

資質・能力目標（４）：学修の最終成果である卒業論文を執筆し、専門的な領域において、先人の成果をふまえた学術的な展望を提示する力。

〈卒業論文における審査項目〉

卒業論文は次の審査項目を満たすものとする。

1. テーマ・問題意識が明確である。
2. 先行研究を踏まえている。
3. 方法が目的に適っている。
4. 内容が論理的で一貫している。
5. 形式が学術論文として適切である。

2. 教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

〈教育課程の編成〉

文学部（通信教育課程）西洋史学専攻領域（学士：史学）は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる資質・能力を養成するために、総合教育科目、必修外国語科目および専門教育科目から構成される教育課程（カリキュラム）を体系的に編成する。

〈教育課程の実施〉

この教育課程の編成のもと、以下の教育方法を組み合わせて教育を実施する。

（１）基礎的かつ包括的な知識と問題意識の獲得を目指し、外国語科目、歴史学の方法論を学ぶ科目、時代・地域を広くカバーする西洋史の概説的・専門的科目群を設置する。

（２）自ら課題を見出し、その解決を目指す能力を身につけるため、学生が自らの学習を進め、次第に高度な専門的学識や技能を習得することができるような専門教育科目群を設置する。

（３）知的探究への動機づけと実践力を育成するため、専門的な知識や技能を習得す

る科目群と学際的な科目群を共に履修する機会を設ける。

〈学修成果の評価方法〉

本専攻領域の教育課程により修得すべき資質・能力目標に対する学修成果の評価は、全塾としてのアセスメントプランの考え方のもと、各科目において定める成績評価基準等に基づいた直接的な指標により行われる。

〈資質・能力目標と教育内容との関係〉

資質・能力目標（１）：西洋世界およびそこから強く影響を受けた地域の歴史についての包括的な知識を持ち、現代の「国際社会」を構成する多様な価値観を理解する力。

→西洋世界の過去についての概説的な知識を得るために、総合教育科目ならびに「西洋史概説」の履修を通して、その中にある多様性や多重性への理解を深める。また、歴史学が人間の生の全ての面を対象とする学問であることを鑑みて、専攻領域の科目群を軸としつつも、他専攻の専門科目の履修を通じ、各自が興味と関心に合わせて自らの学際空間を設計して学習を進める。

資質・能力目標（２）：西洋史学の学術的な専門知識と、史料批判・読解などの歴史学の方法論を身につけたうえで、論理的な思考を行い、専門分野および社会における課題を導く力。

→歴史学の理論と方法論の基礎を学び、歴史学そのものについて考える「史学概論」ならびに特定の時代・地域を個別テーマにもとづき探求する「西洋史特殊」の履修を通じて、高度な専門的学識や技能の習得を目指す。また、「日本史概説」および「東洋史概説」の履修を通して、より広い文脈の中での歴史への理解を深める。

資質・能力目標（３）：自ら情報を収集する力、それを学問的に分析するために必要な外国語力と方法論を鍛え、自ら設定した課題に取り組み、効果的なプレゼンテーションを行う力。

→外国語科目の履修を通じて、専門的な研究文献を講読する力をつける。また、卒業論文指導の過程で、学問研究の方法を実践的に学び、研究・学習課題を自ら定め、達成する能力を育成する。

資質・能力目標（４）：学修の最終成果である卒業論文を執筆し、専門的な領域において、先人の成果をふまえた学術的な展望を提示する力。

→各自の研究テーマを探求し、卒業論文指導の過程で行われるディスカッションやフィードバックを通じて自己の研究過程を客観的に評価し、より高次の問題解決に挑む力を養う。卒業論文の執筆を通じて培った専門性や問題を解決する力を発揮し、論理的な思考と緻密な探究にもとづく自らの学術的な成果を表現する力を育成する。

〔民族学考古学専攻領域〕

1. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

〈教育目標〉

慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を前提として、民族学、考古学及び関連諸分野に関わる研究史、理論、分析方法を学び、具体的な研究に取り組むことにより、諸事象及び諸問題について歴史を軸とした幅広い視点から実証的に探求し、論理的に理解できる能力を培うことを目標とする。加えて、教育課程において定める所定の要件を満たした学生に対し、学士（史学）の学位を授与する。

〈資質・能力目標〉

資質・能力目標（１）：民族学や考古学あるいはそれらの関連分野の研究において必要となる研究史と理論に関する基礎的知識。

資質・能力目標（２）：個別のフィールドにおいて具体的な研究を実施するために必要な、調査、分析、コミュニケーションの能力。

資質・能力目標（３）研究の成果を、研究発表として効果的にプレゼンテーションし、合わせて学術論文（卒業論文）として論理的にまとめる能力。
資質・能力目標（４）：上記（１）～（３）のために必要な語学能力。
資質・能力目標（５）：大学卒業後のより高度な専門研究あるいは実社会の生活において、能動的に問題を発見し分析・解決する実践的能力。

〈卒業論文における審査項目〉

卒業論文は次の審査項目を満たすものとする。

- １．テーマ・問題意識が明確である。
- ２．先行研究を踏まえている。
- ３．フィールドワークも含めて、その研究方法が目的に適っている。
- ４．内容が論理的で一貫している。
- ５．形式が学術論文として適切である。

2. 教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

〈教育課程の編成〉

文学部（通信教育課程）民族学考古学専攻領域（学士：史学）は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる資質・能力を養成するために、専門教育科目から構成される教育課程（カリキュラム）を体系的に編成する。

〈教育課程の実施〉

この教育課程の編成のもと、以下の教育方法を組み合わせて教育を実施する。

- （１）基礎的かつ包括的な知識と問題意識の獲得を目指し、民族学、考古学、関連諸分野に関わる科目群を設置する。
- （２）自ら課題を見出し、その解決を目指す能力を身につけるため、講義科目、テキスト科目、卒業論文指導などにおいて、学生が主体となる能動的な授業を拡充する。
- （３）知的探究への動機づけと実践力を育成するため、専門的な知識や技能を習得する科目群と学際的な科目群を共に履修する機会を設ける。

〈学修成果の評価方法〉

民族学考古学専攻領域の教育課程により修得すべき資質・能力目標に対する学修成果の評価は、全塾としてのアセスメントプランの考え方のもと、各科目において定める成績評価基準等に基づいた直接的な指標により行われる

〈資質・能力目標と教育内容との関係〉

資質・能力目標（１）：民族学、考古学、あるいは関連分野の研究において必要となる研究史と理論についての基礎的知識。

→民族学、考古学、関連分野の基礎的知識を習得するための概論科目「考古学」「民族学」「人類学」を設置する。また、考古学の具体的な研究成果とその方法を学び、併せて学際的視野の習得を目指す、より専門性の高い科目群（「オリエント考古学」「西洋史特殊Ⅰ」）を設置する。

資質・能力目標（２）：個別のフィールドにおいて具体的な研究を実施するために必要な、調査、分析、コミュニケーションの能力。

→フィールドでの調査方法、一次資料の分析方法、調査に必要なコミュニケーション能力については、卒業論文指導において指導する。加えて、教員によって組織される国内外の野外調査等への参加の道も確保する。資質・能力目標（３）：研究の成果を、研究発表として効果的にプレゼンテーションし、合わせて学術論文として論理的にまとめる能力。

→卒業論文指導において、プレゼンテーションとディスカッションによる問題解決を通し、論理的思考力と構成力、プレゼンテーション能力を養成するとともに、研究成果を卒業論文としてまとめることを目指す。

資質・能力目標（４）：上記（１）～（３）のために必要な語学能力。

→卒業論文指導において、卒業論文のテーマに関わる文献の講読を行う。
資質・能力目標（５）：大学卒業後のより高度な専門研究あるいは実社会の生活において、能動的に問題を発見し分析・解決する実践的能力。
→専攻の専門教育のカリキュラム全体での学び、及び卒業論文の執筆を通してこの資質・能力を高めることを目指している。

【第3類】

文学部（通信教育課程）第3類では文学を主とした専攻領域を扱っており、所定の条件を満たした際には、「学士（文学）」の学位が授与されます。学生は、自らが希望する卒業論文のテーマを検討し、そのテーマに関係する専攻領域で求められることを踏まえ学修を進めるとともに、指導教員の指導のもとでテーマを掘り下げて卒業論文の執筆を進めていきます。

第3類で授与される学位の専攻分野と関係する専攻領域は次の通りです。

学士（文学）：国文学専攻領域、中国文学専攻領域、英米文学専攻領域、独文学専攻領域、仏文学専攻領域

所定の必要単位を修得したうえで、それぞれの専攻領域で求められること、卒業論文執筆の重点項目などを含んだ方針は次の通りです。

学士（文学）

〔国文学専攻領域〕

1. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

〈教育目標〉

慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を前提として、国文学・日本語学にかかわる諸領域を対象として、広い視野から着実に文学・言語を理解し、得られた深い知見に基づき、文化の構築や社会の発展に資するための表現力及び論理的構成力を培うことを目標とする。加えて、教育課程において定める所定の要件を満たした学生に対し、学士（文学）の学位を授与する。

〈資質・能力目標〉

資質・能力目標（１）：国文学および日本語学、漢文学を中心に、学芸、習俗など広く日本文化の歴史と現在について専門知識を有し、厳密な研究方法を身につける。

資質・能力目標（２）：自らの問題意識に基づいてテーマを設定し、独力でデータ・資料を収集し、オリジナルな分析・考察を行って課題を解決し、その成果を論理的・説得的に構成して自分のことばで発表できる。

資質・能力目標（３）：国文学・日本語学・日本文化を専門的に学び深く理解することを通して、それらと対照して異文化についても広く深く理解する視野をもつとともに、固定観念や偏見にとらわれず国文学・日本語・日本文化をも相対化してとらえることができる。

資質・能力目標（４）：大学で獲た知識や研究技法を基礎にして、生涯、学習を継続する姿勢をもつとともに、それらの知識・技法を、社会に出てから直面する多様な問題・課題を解決するために応用できる能力をもつ。

資質・能力目標（５）：学修の最終成果である卒業論文を独力で執筆できる。

〈卒業論文における審査項目〉

卒業論文は次の審査項目を満たすことが求められる。

1. テーマ・問題意識が明確でかつ独自性がある。
2. 先行研究を踏まえている。
3. データ・資料を適切に読解・分析している。
4. 内容が論理的で一貫している。

5. 形式が学術論文として適切である。

2. 教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

〈教育課程の編成〉

文学部（通信教育課程）国文学専攻領域（学士：文学）は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる資質・能力目標を養成するために、総合教育科目、必修外国語科目および専門教育科目から構成される教育課程（カリキュラム）を体系的に編成する。

〈教育課程の実施〉

この教育課程の編成のもと、以下の教育方法を組み合わせて教育を実施する。

（１）基礎的かつ包括的な知識と問題意識の獲得を目指し、人文社会科学に加え、自然科学や学際的な分野も包含する多様な科目群を設置する。

（２）自ら課題を見出し、その解決を目指す能力を身につけるため、テキスト科目やスクーリングなどにおいて、学生が主体となる能動的な授業を実施する。

（３）知的探究への動機づけと実践力を育成するため、専門的な知識や技能を習得する科目群と学際的な科目群を共に履修する機会を設ける。

〈学修成果の評価方法〉

本専攻領域の教育課程により修得すべき資質・能力目標に対する学修成果の評価は、全塾としてのアセスメントプランの考え方のもと、各科目において定める成績評価基準等に基づいた直接的な指標により行われる。

〈資質・能力目標と教育内容との関係〉

資質・能力目標（１）：国文学および日本語学、漢文学を中心に、学芸、習俗など広く日本文化の歴史と現在について専門知識を有し、厳密な研究方法を身につける。

→総合教育科目、必修外国語科目において、学士課程での学びの軸となる幅広い見識、学習のための基礎的技能、着実な言語運用能力を身につけ、専門教育科目において国文学・日本語学などについて、深い学びを可能にするための総合的学識・技術の獲得を目指す。

資質・能力目標（２）：自らの問題意識に基づいてテーマを設定し、独力でデータ・資料を収集し、オリジナルな分析・考察を行って課題を解決し、その成果を論理的・説得的に構成して自分のことばで発表できる。

→総合教育科目、必修外国語科目での学修成果をふまえ、専門教育科目において、国文学・日本語学に関する基礎的な知識を修得し、次第に高度な専門的学識や技能の習得を目指す。

資質・能力目標（３）：国文学・日本語学・日本文化を専門的に学び深く理解することを通して、それらと対照して異文化についても広く深く理解する視野をもつとともに、固定観念や偏見にとらわれず国文学・日本語・日本文化をも相対化してとらえることができる。

→専門教育科目において、国文学・日本語学に関わる幅広い知識を身につけるとともに、専攻外の専門教育科目等の履修も可能とし、広く人文社会科学領域に関する理解を深める機会を設ける。

資質・能力目標（４）：大学で獲た知識や研究技法を基礎にして、生涯、学習を継続する姿勢をもつとともに、それらの知識・技法を、社会に出てから直面する多様な問題・課題を解決するために応用できる能力をもつ。

→専門教育科目において、国文学・日本語学領域における最新の研究成果を知り、その知見・技術と現代社会との結びつきについて理解を深める機会を設ける。

資質・能力目標（５）：学修の最終成果である卒業論文を独力で執筆できる。

→卒業論文の指導を中心に、言葉や文学についての議論や分析を基礎として各自の研究テーマを探求し、ディスカッションやフィードバックを通じて自己の研究過程を客観的に評価し、より高次の問題解決に挑む力を養う。

〔中国文学専攻領域〕

1. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

〈教育目標〉

慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を前提として、中国文化圏における「文（ことば）」にかかわる広大な領域を対象として、創立者福澤諭吉の「実学（じつがく）の精神」に基づき、実証的に真理を解明し問題を解決してゆく科学的な姿勢と知識および能力を培うことを目標とする。加えて、教育課程において定める所定の要件を満たした学生に対し、学士（文学）の学位を授与する。

〈資質・能力目標〉

資質・能力目標（１）：中国文化圏を中心とする多様な文化や地域につながる幅広い教養を持ち、それを日本語で適切に説明し、コミュニケーションを行う力。

資質・能力目標（２）：中国文学を中心とする人文社会科学の学術的な知識と、情報収集能力を身につけたうえで、論理的な思考を行い、効果的なプレゼンテーションを行う力。

資質・能力目標（３）：社会の中で中国文学を中心とした人文社会科学を学ぶことの意義を自覚し、自ら設定した目標の達成や社会問題の解決を、ふさわしい方法で行う力。

資質・能力目標（４）：学修の最終成果である卒業論文を執筆し、中国文学を中心とする専門的な領域において、先人の成果をふまえた新たな展望を提示する力。

〈卒業論文における審査項目〉

卒業論文（卒業試験）は次の審査項目を満たすものとする。

1. テーマ・問題意識が明確である。
2. 先行研究を踏まえている。
3. 方法が目的に適っている。
4. 内容が論理的で一貫している。
5. 形式が学術論文として適切である。

2. 教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

〈教育課程の編成〉

文学部（通信教育課程）中国文学専攻領域（学士：文学）は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる資質・能力目標を養成するために、総合教育科目、必修外国語科目および専門教育科目から構成される教育課程（カリキュラム）を体系的に編成する。

〈教育課程の実施〉

この教育課程の編成のもと、以下の教育方法を組み合わせて教育を実施する。

- （１）基礎的かつ包括的な知識と問題意識の獲得を目指し、多様な科目群を設置する。
- （２）自ら課題を見出し、その解決を目指す能力を身につけるため、学生が主体となる能動的な授業を拡充する。
- （３）知的探究への動機づけと実践力を育成するため、専門的な知識や技能を習得する科目群と学際的な科目群を共に履修する機会を設ける。

〈学修成果の評価方法〉

本専攻領域の教育課程により修得すべき資質・能力目標に対する学修成果の評価は、全塾としてのアセスメントプランの考え方のもと、各科目において定める成績評価基準等に基づいた直接的な指標により行われる。

〈資質・能力目標と教育内容との関係〉

資質・能力目標（１）：中国語圏を主とする多様な文化や地域につながる幅広い教養を持ち、それを日本語で適切に説明し、コミュニケーションを行う力。

→総合教育科目、専門教育科目において、学士課程での学びの軸となる幅広い見識、学習のための基礎的技能を身につけるとともに、さらなる応用力を養う。

資質・能力目標（２）：人文社会科学の学術的な知識と、情報収集能力を身につけたうえで、論理的に思考し、効果的なプレゼンテーションを行う力。

→専門教育科目において、主に中国語文化圏にかかわる文学等を中心とした基礎的な知識を修得し、次第に高度な専門的学識や技能の習得を目指す。

資質・能力目標（３）：社会の中で人文社会科学を学ぶことの意義を自覚し、自ら設定した目標の達成や社会問題の解決を、ふさわしい方法で行う力。

→様々な科目を組み合わせることで履修することにより、研究・学習課題を自ら定め、達成する能力を育成する。また、他専攻領域の専門教育科目等の履修によって、広く人文社会科学領域に関する理解を深める機会を設ける。

資質・能力目標（４）：学修の最終成果である卒業論文を執筆し、専門的な領域において、先人の成果をふまえた新たな展望を提示する力。

→主として卒業論文の指導において、各自の研究テーマを探求し、ディスカッションやフィードバックを通じて自己の研究過程を客観的に評価し、より高次の問題解決に挑む力を養う。

〔英米文学専攻領域〕

1. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

〈教育目標〉

慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を前提として、英語学、英文学、米文学の分野の学修と研究を通じて、英語、英米文学の専門的な知識と研究方法を身につけ、専門分野の教養を活かして社会に貢献する人材を育成することを目的とする。

〈資質・能力目標〉

資質・能力目標（１）：日本語ならびに外国語（英語）を使用して正確な読解と適切な調査にもとづいた論理的な思考を展開し、他者と生産的な議論を行う力。

資質・能力目標（２）：外国語（英語）を使用して生産的な発信を行う力。

資質・能力目標（３）：英語という言語それ自体に対する関心・理解を深め、過去から現在に至る英語を使用した文化の特徴・歴史に関する知識を応用する力。

資質・能力目標（４）：英語を通じて異文化の他者と交流を持ち、共通の問題を解決していくための議論や実践する基礎的な力。

〈卒業論文における審査項目〉

卒業論文（卒業試験）は次の審査項目を満たすものとする。

1. テーマ・問題意識が明確である。
2. 先行研究を踏まえている。
3. 方法が目的に適っている。
4. 内容が論理的で一貫している。
5. 形式が学術論文として適切である。

2. 教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

〈教育課程の編成〉

文学部（通信教育課程）英米文学専攻領域（学士：文学）は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる資質・能力目標を養成するために、総合教育科目、必修外国語科目および専門教育科目から構成される教育課程（カリキュラム）を体系的に編成する。

〈教育課程の実施〉

この教育課程の編成のもと、以下の教育方法を組み合わせて教育を実施する。

(1) 英語学、言語学、イギリス・アメリカ文学の基礎的かつ包括的な知識と問題意識の獲得を目指す科目群を設置し、また他専攻領域の専門教育科目等の履修によって、広く人文社会科学領域に関する理解を深める機会を設ける。

他の類で扱う専門教育科目を横断的に学べる科目群を設置する。

(2) 自ら課題を見出し、その解決を目指す能力を身につけるため、テキスト科目、スクーリング科目、講義科目、研究の必要に応じた実験、フィールドワークなどにおいて、学生が主体となる能動的な授業を拡充する。

(3) 知的探究への動機づけと実践力を育成するため、専門的な知識や技能を習得する科目群と学際的な科目群を共に他の類で扱う専門教育科目群を履修する機会を設ける。

〈学修成果の評価方法〉

本専攻領域の教育課程により修得すべき資質・能力目標に対する学修成果の評価は、全塾としてのアセスメントプランの考え方のもと、各科目において定める成績評価基準等に基づいた直接的な指標により行われる。

〈資質・能力目標と教育内容との関係〉

資質・能力目標(1)：日本語ならびに外国語(英語)を使用して正確な読解と適切な調査にもとづいた論理的な思考を展開し、他者と生産的な議論を行う力。

→テキスト科目や講義科目のレポート作成において、一次資料の深い読解に根差した論拠を挙げて意見を主張し、リサーチにより収集した適切な二次資料を用いながら自分の見解を他の専攻研究と比較検証しながら論じることができるよう指導する。

資質・能力目標(2)：外国語(英語)を使用して生産的な発信を行う力。

→テキスト科目でのレポート作成や卒業論文作成において、原書の正確な読解と深い考察を行うよう指導する。

資質・能力目標(3)：英語という言語それ自体に対する関心・理解を深め、過去から現在に至る英語を使用した文化の特徴・歴史に関する知識を応用する力。

→英語学、言語学、英文学、米文学の分野にわたるテキスト科目や講義科目を履修することを勧める。

資質・能力目標(4)：英語を通じて異文化の他者と交流を持ち、共通の問題を解決していくための議論や実践する基礎的な力。

→卒業論文の作成を通じて日本国内および海外での先行研究を踏まえた議論を行うよう指導する。

〔独文学専攻領域〕

1. 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

〈教育目標〉

慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)を前提とし、ドイツ語・ドイツ語文学を中心とする広大で多彩なドイツ語圏諸文化現象の探究を通じて、流動化する国際社会においてよりよく生きるための教養と学識、倫理的判断力と実践的能力を培うことを目標とする。加えて、教育課程において定める要件を満たした学生に対し、学士(文学)の学位を授与する。

〈資質・能力目標〉

資質・能力目標(1)：関連文献を通じて、ドイツ語学・文学研究ならびにドイツ語圏の文化現象全般に関する総合的知識を獲得し、この知識を基盤に当該領域に関する問題を発見・設定する力。

資質・能力目標(2)：ドイツ語文化圏の歴史的、文化的特性を理解することによ

て、日本語および日本文化を相対化する視点を獲得し、自文化に関する反省的思考を深め、これを通じて得られた異文化リテラシーを生かし、社会人として国際社会に貢献する力。

資質・能力目標（３）：明確な問題意識を持ち、自ら発見・設定した問題の解決に至る思考の過程を、先行研究を踏まえて論理的に記述した卒業論文を作成する力。

〈卒業論文における審査項目〉

学修の最終成果である卒業論文（卒業試験）は、次の審査項目を満たすものとする。

- １．テーマ・問題意識が明確である。
- ２．先行研究を踏まえている。
- ３．方法が目的に適っている。
- ４．内容が論理的で一貫している。
- ５．形式が学術論文として適切である。

2. 教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

〈教育課程の編成〉

文学部（通信教育課程）独文学専攻 領域（学士：文学）は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる資質・能力を養成し、かつ学生個々の関心領域に応じた学修が可能となるよう多様な専門教育科目を設置し、これらから構成される教育課程（カリキュラム）を体系的に編成する。

〈教育課程の実施〉

この教育課程の編成のもと、以下の通り教育を実施する。

（１）ドイツ語学、ドイツ文学、ドイツ文化学の領域に関して専門的知識を深めることができるようカリキュラム設計を行う。

〈学修成果の評価方法〉

本専攻領域の教育課程により修得すべき資質・能力目標に対する学修成果の評価は、全塾としてのアセスメントプランの考え方のもと、各科目において定める成績評価基準等に基づいた直接的な指標により行われる。

〈資質・能力目標と教育内容との関係〉

資質・能力目標（１）：関連文献を通じて、ドイツ語学・文学研究ならびにドイツ語圏の文化現象全般に関する総合的知識を獲得し、この知識を基盤に当該領域に関する問題を発見・設定する力。

→文学および文学史についての概括的知識（「ドイツ文学史」、「ドイツ文学研究」）やドイツ言語学（「ドイツ語学文学」）、ドイツ小説史（「近代ドイツ小説」）、ドイツ演劇史（「近代ドイツ演劇」）等に関する科目を設置し、学生が個々の関心ないし問題意識に応じて学修を設計できるよう配慮する。

資質・能力目標（２）：ドイツ語文化圏の歴史的、文化的特性を理解することによって、日本語および日本文化を相対化する視点を獲得し、自文化に関する反省的思考を深め、これを通じて得られた異文化リテラシーを生かし、社会人として国際社会に貢献する力。

→ドイツ言語学分野の科目（「ドイツ語学文学」）は言語コミュニケーションの媒体としてのドイツ語を多様な視点から客体化しつつ探究することによって、同時に日本語および日本文化を相対化する視座を与える。

資質・能力目標（３）：明確な問題意識を持ち、自ら発見・設定した問題の解決に至る思考の過程を、先行研究を踏まえて論理的に記述した卒業論文を作成する力。

→学生はドイツ語圏文学・語学・文化についての幅広い基礎知識およびドイツ語圏研究の作法を基盤に、上記の専門教育科目群からそれぞれの関心に応じた領域の科目を主体的に選び、重点的かつ批判的に学修する。そして最終的には自ら問題を設定してこれを深く追究し、その成果を卒業論文にまとめあげる。

〔仏文学専攻領域〕

1. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

〈教育目標〉

慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を前提として、フランスとフランス語圏の言語、文学、思想、文化、歴史を中心とする広大な領域を対象とし、多様化する国際社会で求められる教養の獲得を目標とする。加えて、教育課程において定める要件を満たした学生に対し、学士（文学）の学位を授与する。

〈資質・能力目標〉

資質・能力目標（１）：仏文学専攻領域での学びを通して、日本の文化を相対的視点から捉え直すとともに、フランス語圏の文化のみならず、広く異文化に対して関心と理解を示す社会人となり、多様化する国際社会に貢献する力。

資質・能力目標（２）：日本語およびフランス語の文献の読解、分析を通して、フランス語圏の言語、文学、思想、文化、歴史に関する総合的な知識を習得し、それをもとに日本語あるいはフランス語で自分の考えを論理的かつ効率的に説明する力。

資質・能力目標（３）：自ら関心を持つテーマを設定し、関連する先行研究を批判的に検証しながら、独自の視点で考察を掘り下げた卒業論文を執筆する力。

〈卒業論文における審査項目〉

学修の最終成果である卒業論文は次の審査項目を満たすものとする。

1. テーマ・問題意識が明確である。
2. 先行研究を踏まえている。
3. 方法が目的に適っている。
4. 内容が論理的で一貫している。
5. 形式が学術論文として適切である。

2. 教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

〈教育課程の編成〉

通信教育課程文学部第3類仏文学専攻領域（学士：文学）は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる資質・能力を養成するために、専門教育科目から構成される教育課程（カリキュラム）を体系的に編成する。

〈教育課程の実施〉

この教育課程の編成のもと、以下の教育方法を組み合わせて教育を実施する。

（１）各科目で定める目的に応じて、フランス語圏の言語、文学、思想、文化、歴史にかかわる広範な知識を伝え、あるいは、時代的にも主題的にも多岐にわたる、専門的な知見、思考法、発表技術を教授する。

（２）各科目で定める方針に応じて、特定の主題について論じながら、学際的な、他に関心した視点も提供して知的探求心を刺激し、あるいは、学生個々に積極的な参加を促して、それぞれの段階を踏んで分析力や文章力を研磨するよう指導する。

（３）卒業論文作成を、学生が各科目で学修したことを応用して、独自の課題を発見し、それについて説得力のある論考をまとめる、集大成として位置づける。

〈学修成果の評価方法〉

本専攻の教育課程により修得すべき資質・能力目標に対する学修成果の評価は、全塾としてのアセスメントプランの考え方のもと、各科目において定める成績評価基準等に基づいた直接的な指標により行われる。

〈資質・能力目標と教育内容との関係〉

資質・能力目標（１）仏文学専攻領域での学びを通して、日本の文化を相対的視点か

ら捉え直すとともに、フランス語圏の文化のみならず、広く異文化に対して関心と理解を示す社会人となり、多様化する国際社会に貢献する力。

→フランス語圏の言語、文学、思想、文化、歴史への造詣を深めながら、それに隣接する他の文化圏や、翻って日本文化へも目を開かせ、世界の複雑な成り立ちを啓発する。

資質・能力目標（２）日本語およびフランス語の文献の読解・分析を通して、フランス語圏の言語、文学、思想、文化、歴史に関する総合的な知識を習得し、それをもとに日本語あるいはフランス語で自分の考えを論理的かつ効率的に説明する力。

→多様な形式と内容の文献を対象として、精緻に読み込み、そこから独自の主張を導き出し、その主張を口頭あるいは文章で説得力をもって訴える、という一連の作業を課して、個々の自発的な取り組みを督励する。

資質・能力目標（３）自ら関心を持つテーマを設定し、関連する先行研究を批判的に検証しながら、独自の視点で考察を掘り下げた卒業論文を執筆する力。

→指導教員が学生個々の特性、長所、短所に適切に対応し、それとともに、学生には自身の研究を自ら適切に評価、批判することを促して、独自性と普遍性を備えた卒業論文の完成へと導く。

教育課程の編成及び実施に関する方針

（公表方法：ホームページにて公表している。

<https://www.tsushin.keio.ac.jp/faculty/flet/policy.html>）

（概要）

前項「卒業又は修了認定に関する方針」の（概要）に記載

入学者の受入れに関する方針

（公表方法：ホームページにて公表している。

<https://www.tsushin.keio.ac.jp/faculty/flet/policy.html>）

（概要）

文学部(通信教育課程)では次のような資質・能力を有する学生を求めています。

- ・慶應義塾の精神に対する十分な理解、および学問に対する意欲と向上心
- ・先人による古典類から最新の研究成果が書かれた論文に至るまでの諸文献を読み込み、理解するための基礎となる語学力(日本語、および英語・フランス語・ドイツ語・中国語)
- ・与えられた課題に対して論理的に思考し、それに対する自分の考えを正確かつ十分に記述する能力
- ・現在の社会や文化の成り立ちを理解するための基礎となる歴史的な知識(日本史または世界史)

これらは、文学部（通信教育課程）が設置しているすべての類(哲学を主とする第１類、史学を主とする第２類、文学を主とする第３類)に共通しており、入学後、それぞれの類における独自のカリキュラムに従って、専門的な知識や能力を身につけていきます。したがって、文学部(通信教育課程)に入学する者は、これらの類が対象とするいずれかの学問に対する関心・好奇心を有することもまた必要です。

以上の方針に基づき、入学選考を実施します。入学選考は書類選考によりますが、今後の学習勉強計画・研究計画について、明確なプランを持っていることが求められます。入学後、円滑に勉強を進めていくための、基本的な学力、とくにアカデミック・ライティングのために必要な日本語能力を求めます。

学部等名 経済学部

教育研究上の目的 （公表方法：ホームページにて公表している。 https://www.tsushin.keio.ac.jp/faculty/econ/policy.html）
（概要） 経済学部教育の目的は、慶應義塾の建学の精神を踏まえつつ、各界で指導的役割を担う次世代の人材を養成することである。
卒業又は修了認定に関する方針 （公表方法：ホームページにて公表している。 https://www.tsushin.keio.ac.jp/faculty/econ/policy.html）
（概要） 慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を前提として、総合教育科目、語学ならびに経済学全般に関する広い知識・理解力と経済学の特定専門分野に関する深い考察力を兼ね備えた者に、学士（経済学）の学位を授与する。経済学を一つの軸とする教養を備え、変化する社会を適切に認識し、日本社会をリードすると同時に世界で活躍できる能力を証するものとして学位を授与することを方針としている。 資質・能力目標（１）：一般教養、語学ならびに経済学全般に関する広い知識・理解力と経済学の特定専門分野に関する深い考察力を養う。 資質・能力目標（２）：経済学を一つの軸とする教養を備え、変化する社会を適切に認識し、日本社会をリードすると同時に世界で活躍できる能力を養う。
教育課程の編成及び実施に関する方針 （公表方法：ホームページで公表している。 https://www.tsushin.keio.ac.jp/faculty/econ/policy.html）
（概要） 経済学部の通信教育課程は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる資質・能力を養成するために、幅広い科目を用意している。 通学課程では経済学部と商学部がそれぞれ独立しているが、通信教育課程では経済学部の中で商学部系列の科目が履修できるようになっている。専門教育科目は必修科目と選択科目に分かれ、広い分野にわたって科目を履修することになる。 経済学部設置されている各コースは、いずれも経済現象の理論的分析と実証的分析への基本的視点を提供するものとなっている。さらに経済現象を歴史的に捉えるために必要な経済史関係の科目、経済学の過去を振り返る学史・思想史関係の科目、人口・環境・都市と地域など社会関連の学際的な科目も多く配置している。 通信教育課程・経済学部の卒業には、総合教育科目（48 単位）、専門教育科目（68 単位）、卒業論文（8 単位）の、合計124 単位が必要である。 総合教育科目には（１）3 分野科目（人文科学分野・社会科学分野・自然科学分野）、（２）必修外国語科目、（３）選択外国語科目、（４）保健体育科目がある。専門教育科目は、マクロ経済学・ミクロ経済学・経済史等の必修科目と、他の選択科目で構成される。 この教育課程の編成のもと、通信授業（テキスト）や、面接授業（スクーリング）、メディア授業（E-スクーリング）などの教育法を組み合わせ教育を実施する。 経済学部の教育課程により修得すべき資質・能力目標に対する学修成果の評価は、全塾としてのアセスメントプランの考え方のもと、各科目において定める成績評価基準等に基づいた直接的な指標により行われるほか、各種アンケートや調査等を含めた定

量的・定性的、直接的・間接的な指標を用いて評価される。

資質・能力目標（１）：一般教養、語学ならびに経済学全般に関する広い知識・理解力と経済学の特定専門分野に関する深い考察力

「総合教育科目」の外国語科目は、単に言語を学ぶだけではなく、さまざまな考え方や感じ方、文化や教養などを身につけ、自分の世界を広げることを目的とする。外国語を学び、経済学を学ぶことで、世界を理解し、そして世界にむかって表現できる力を育成する。

3分野科目（人文科学分野・社会科学分野・自然科学分野）では、経済学という専門知識の習得のみならず、幅広い領域の知識と教養を身につけることを目的とする。知識の蓄積に加え、将来にわたり自らが進む道を支える智恵と技を体得することを目指す。

「専門教育科目」では、マクロ経済学・ミクロ経済学・経済史等を必修科目とし、経済学部におけるあらゆる専門分野を学んで行くに当たり必要となる土台をつくる。

資質・能力目標（２）：経済学を一つの軸とする教養を備え、変化する社会を適切に認識し、日本社会をリードすると同時に世界で活躍できる能力

「専門教育科目」では、基礎的な科目からはじまり、経済理論・計量経済、経済史・学史・思想史、経済政策、日本経済・国際経済、商業学・経営学・会計学、法律学といった幅広い科目を提供している。これらは、必修科目の内容の理解を前提とし、各自の目標と関心に沿って履修する、発展的な内容の講義を含む。多くが、教員の専門分野に最も近い内容の科目であり、学生の自発性と意欲に従って、最新かつ水準の高い内容を学習できる科目群である。

入学者の受入れに関する方針

（公表方法：ホームページにて公表している。

<https://www.tsushin.keio.ac.jp/faculty/econ/policy.html>）

（概要）

通信教育課程としてはとくに次のような学生を求めている。

（１）さまざまな事情で、通学課程に通うことが困難であった人、あるいは現に困難な人。

（２）職業生活を終えたが、その旺盛な向学心をさらに満たしたいと考えている人。

（３）職業生活の途上で、自らの学歴を高度化することによって、職業的なステップアップを考えている人。

（４）当該学部に入學するための一定の読書歴と、今後の勉学計画・研究計画について、明確なプランを持っている人。

（５）入学後、円滑に勉学を進めていくための、基本的な学力、とくにアカデミック・ライティングのために必要な日本語能力を持っている人。

このような入学者を幅広く受け入れるため、書類選考により選抜を実施する。

学部等名 法学部

教育研究上の目的

（公表方法：ホームページにて公表している。

<https://www.tsushin.keio.ac.jp/faculty/law/policy.html>）

(概要) 法学部は、本塾建学の精神に則り、国際的な視野に立ちつつ新しい社会を創造し未来を先導する人材を育成すべく、法学および政治学の専門分野のみならず幅広い教養について教授研究することを目的とする。
卒業又は修了認定に関する方針 (公表方法：ホームページにて公表している。 https://www.tsushin.keio.ac.jp/faculty/law/policy.html)
(概要) <甲類> 法学部通信教育課程・甲類は、慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を前提として、社会現象を法的な視点からとらえ、柔軟かつ的確に判断し、論理的に思考することのできる能力を涵養し、社会のさまざまな場面において主体的・積極的に活躍できる人材を育成することを目標としている。その目標を高い次元で達成して以下のような知識・姿勢・能力を獲得し、加えて、教育課程において定める所定の要件を満たした学生に対し、学士（法学）の学位を授与する。 (1) 専門分野の知識と技能の修得 法律学の専門知識を修得し、さまざまな社会事象・問題を精確かつ多面的に捉え、論理的に思考し、問題解決の方向性を示すことができる。 (2) 幅広い領域の知見・技能の修得 法律学のみならず、人文科学・社会科学・自然科学・外国語の広範な知見・技能をもって、専門と教養のバランスの取れた人間を育成し、学際的・発展的・創造的な思考を展開させ、また、活躍の領域を国際的にも広げることができる。 <乙類> 法学部通信教育課程・乙類は、慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を前提として、個別の行為や現象を全体との関連で適切に位置づける能力、つまり組織の指導者に要求されるジェネラリストとしての資質の涵養を目標とする。その目標を高い次元で達成して以下のような知識・姿勢・能力を獲得し、加えて、教育課程において定める所定の要件を満たした学生に対し、学士（法学）の学位を授与する。 (1) 専門分野の知識と技能の修得 政治学の専門知識を習得し、社会におけるさまざまな政治現象を、政治学はもとより、ひろく社会科学の視点から捉え、個別の行為や現象を全体との関連で適切に位置づけることができる。 (2) 幅広い領域の知見・技能の修得 政治学のみならず、人文科学・社会科学・自然科学・外国語の広範な知見・技能をもって、学際的・発展的・創造的な思考を展開させ、また、活躍の領域を国際的にも広げることができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (ホームページにて公表している。 https://www.tsushin.keio.ac.jp/faculty/law/policy.html)
(概要) <甲類> 法学部通信教育課程・甲類（学士：法学）は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる資質・能力を養成するために、総合教育科目と法律学専門科目から成る教育課程を体系的に編成する。 この教育課程の編成のもと、テキスト科目、メディア授業、スクーリングなどの教育法を組み合わせ、教育を実施する。 この教育課程により修得すべき資質・能力目標に対する学修成果の評価は、全塾としてのアセスメントプランの考え方のもと、各科目において定める成績評価基準等に基づき

づいた直接的な指標により行われるほか、各種アンケートや調査等を含めた定量的・定性的、直接的・間接的な指標を用いて評価される。

(1) 法学の専門知識と技能の修得のため、多くの専門科目を設置する。憲法、民法、刑法、商法をはじめとする日本の現行の六法分野にとどまらず、経済法や社会保障法、それに国際法や外国法、さらに法(正義)の理念や法学の方法論を学ぶ法哲学、そして法の歴史をひもとく法制史など、さまざまなアプローチからの法を学習できるようにする。

(2) 専門と教養のバランスの取れた人間を育成するため、外国語科目、人文科学・社会科学・自然科学のさまざまな分野の科目を総合教育科目としてバランス良く配置する。

<乙類>

法学部通信教育課程・乙類(学士(法学))は、「卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)」に掲げる資質・能力を養成するために、総合教育科目と政治学専門科目から成る教育課程を体系的に編成する。

この教育課程の編成のもと、テキスト科目、メディア授業、スクーリングなどの教育法を組み合わせ教育を実施する。

この教育課程により修得すべき資質・能力目標に対する学修成果の評価は、全塾としてのアセスメントプランの考え方のもと、各科目において定める成績評価基準等に基づいた直接的な指標により行われるほか、各種アンケートや調査等を含めた定量的・定性的、直接的・間接的な指標を用いて評価される。

(1) 政治学の専門知識と技能の修得のため、政治・社会現象を理解する分析方法やさまざまな理論を学びつつ、古代から現代にいたる政治史や政治思想史を、日本はもちろんのこと他の地域においても考察し、国際比較のなかで現代の政治課題を深く学習できる科目を設置する。それに加え、民法、国際法など、法律学を学習する専門科目も設置する。

(2) 専門と教養のバランスの取れた人間を育成するため、外国語科目、人文科学・社会科学・自然科学のさまざまな分野の科目を総合教育科目としてバランス良く配置する。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法: ホームページにて公表している。

<https://www.tsushin.keio.ac.jp/faculty/law/policy.html>)

(概要)

法学部通信教育課程の求める学生像は以下のとおりである。

(1) 慶應義塾の建学の精神と法学部の教育目標をよく理解し、そのカリキュラムのもとで主体的・積極的に学習に取り組む姿勢を有している人

(2) 社会のさまざまな事象を政治学的な視点から捉え、分析し、判断するための基礎的知見、論理的思考力、表現力を有している人

(3) 国際的な視野に立ち、多様な価値観を受容しつつ、新しい社会を創造し先導する気概を有している人

(4) 社会生活と通信教育課程における学習の両立を図る困難に打ち勝ち、職業生活の途上にあつて自らの学歴を高度化しさらなるステップアップをする意欲をもつ職業生活の途上にある人、又は、職業生活は終えたものの、さらに大学での学びを深めようとする意欲をもつ人

このような入学者を幅広く受け入れるため、出願書類にもとづく選考により選抜を実施する。

法学部に入学するための一定の読書歴と、今後の勉学計画・研究計画について、明確なプランを持っていることを、書類選考の中で確認し、評価対象とする。入学後、円

滑に勉学を進めていくための、基本的な学力、とくにアカデミック・ライティングのために必要な日本語能力についても確認し、評価対象とする。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：慶應義塾 Web「情報公開」ページにて公開している。
<https://www.keio.ac.jp/ja/about/learn-more/data/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	1 人	—					1 人
文学部	—	97 人	39 人	0 人	22 人	0 人	158 人
経済学部	—	99 人	34 人	7 人	21 人	0 人	161 人
法学部	—	74 人	23 人	20 人	4 人	0 人	121 人
商学部	—	76 人	28 人	9 人	4 人	0 人	117 人
医学部	—	77 人	68 人	211 人	381 人	129 人	866 人
理工学部	—	155 人	76 人	30 人	37 人	0 人	298 人
総合政策学部	—	29 人	17 人	12 人	0 人	0 人	58 人
環境情報学部	—	31 人	15 人	9 人	0 人	0 人	55 人
看護医療学部	—	18 人	7 人	9 人	14 人	0 人	48 人
薬学部	—	24 人	10 人	12 人	31 人	0 人	77 人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0 人		2,302 人					2,302 人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：慶應義塾web「研究者情報・業績」により公表している。 https://www.keio.ac.jp/ja/research/about/researchers/					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
文学部	800 人	925 人	115.6%	3,200 人	3,600 人	112.5%	0 人	0 人
文学部（通信）	3,000 人	242 人	8.1%	12,000 人	2,894 人	24.1%	0 人	0 人
経済学部	1,200 人	1,083 人	90.3%	4,800 人	5,347 人	111.4%	0 人	0 人

経済学部（通信）	4,000人	201人	5.0%	16,000人	2,479人	15.5%	0人	0人
法学部	1,200人	1,200人	100.0%	4,800人	5,183人	108.0%	0人	0人
法学部（通信）	2,000人	188人	9.4%	8,000人	1,847人	23.1%	0人	0人
商学部	1,000人	1,045人	104.5%	4,000人	4,468人	111.7%	0人	0人
医学部	110人	110人	100.0%	660人	665人	100.8%	0人	0人
理工学部	932人	975人	104.6%	3,728人	4,036人	108.3%	0人	0人
総合政策学部	425人	392人	92.2%	1,700人	1,949人	114.6%	0人	0人
環境情報学部	425人	381人	89.6%	1,700人	1,981人	116.5%	0人	0人
看護医療学部	100人	105人	105.0%	415人	443人	106.7%	5人	2人
薬学部薬学科	150人	145人	96.7%	900人	901人	100.1%	0人	0人
薬学部薬科学科	60人	62人	103.3%	240人	273人	113.8%	0人	0人
合計	15,402人	7,054人	45.8%	62,143人	36,066人	58.0%	5人	2人
（備考） ・2026年5月1日現在の学生数 ・入学定員は秋学期入学用の定員を含む								

b. 卒業者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
文学部	795人 (100%)	74人 (9.3%)	645人 (81.1%)	76人 (9.6%)
経済学部	1,211人 (100%)	82人 (6.8%)	967人 (79.9%)	162人 (13.4%)
法学部	1,224人 (100%)	155人 (12.7%)	952人 (77.8%)	117人 (9.6%)
商学部	976人 (100%)	27人 (2.8%)	866人 (88.7%)	83人 (8.5%)
医学部	110人 (100%)	1人 (0.9%)	105人 (95.5%)	4人 (3.6%)
理工学部	919人 (100%)	728人 (79.2%)	171人 (18.6%)	20人 (2.2%)
総合政策学部	419人 (100%)	38人 (9.1%)	333人 (79.5%)	48人 (11.5%)
環境情報学部	438人 (100%)	61人 (13.9%)	322人 (73.5%)	55人 (12.6%)
看護医療学部	111人 (100%)	15人 (13.5%)	93人 (83.8%)	3人 (2.7%)
薬学部 薬学科	140人 (100%)	12人 (8.6%)	121人 (86.4%)	7人 (5.0%)
薬学部 薬科学科	59人 (100%)	47人 (79.7%)	9人 (15.3%)	3人 (5.1%)
合計	6,402人 (100%)	1,240人 (19.4%)	4,584人 (71.6%)	578人 (9.0%)
（主な進学先・就職先）（任意記載事項）				
（備考）				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要) 通学課程： - 例年10月頃に次年度の授業担当者が決定するので、11月にシラバスの作成を依頼。翌年1月から3月にかけて編集し、授業科目の内容・目的・方法・授業計画ならびに成績評価方法などについて『シラバス（講義要綱）』として3月中旬を目途に公表している。 - 閲覧方法 ①在学生は Web の塾生サイトで ID とパスワードでログインし閲覧する。「塾生サイト」→「所属キャンパス」→「所属学部」→「時間割・シラバス・履修」ページ 例) 三田キャンパス https://www.students.keio.ac.jp/mt/class/registration/ ②一般向けには、表示項目の一部を除き公表している。 https://gslbs.keio.jp/pub-syllabus/search 通信教育課程： - 例年、11月に次年度の授業担当者が決定し、12月にシラバスの作成を依頼。翌年1月から2月にかけて編集し、「講義要綱（シラバス）」として3月上旬に公表している。 - 閲覧方法 一般および在学生向けに、慶應義塾通信教育課程 Web サイト (https://slbs.tsushin.keio.ac.jp/) で公開している。
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要) 通学課程： - 授業科目の評価は試験やレポートの提出を課し、成績は、S・A・B・C・Dの5段階評価を持って示し、S・A・B・Cを合格、Dを不合格とし、合格した科目には所定の単位を与えている。また、学位認定については、履修科目で得た単位数に卒業論文の審査などにより取得した単位を加え、各学部学則に定める卒業必要単位数の充足をもって、各学部教授会が認定している。 通信教育課程： - 通信授業（テキスト）、面接授業（スクーリング）、メディア授業（E-スクーリング）、卒業論文の成績は、S・A・B・C・Dの5段階評価を持って示し、S・A・B・Cを合格、Dを不合格とし、合格した科目には所定の単位を与えている。 4か年以上同一学部にて在学し、慶應義塾大学通信教育部学則に定める各学部共通の条件なら

びに各学部 conditions を満たし、かつ卒業試験に合格した者に当該教授会が卒業の資格を与える。				
学部名	学科名	卒業又は修了に必要な単位数	GPA 制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
文学部		128 単位	有・無	単位
文学部 (通信教育課程)		124 単位	有・無	単位
経済学部		126 単位	有・無	単位
経済学部 (通信教育課程)		124 単位	有・無	単位
法学部		136 単位	有・無	単位
法学部 (通信教育課程)		124 単位	有・無	単位
商学部		128 単位	有・無	単位
医学部		236 単位	有・無	単位
理工学部		138 単位	有・無	単位
総合政策学部		124 単位	有・無	単位
環境情報学部		124 単位	有・無	単位
看護医療学部		124 単位	有・無	単位
薬学部	薬学科	188 単位	有・無	単位
	薬科学科	126 単位	有・無	単位
GPA の活用状況 (任意記載事項)		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：公表方法：慶應義塾 web「キャンパス」ページにて公表している。
<https://www.keio.ac.jp/ja/about/campus/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

(通学課程) <https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/fees/>

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
文学部		990,000 円	200,000 円	310,000 円	・左記金額は初年度納付額。入学 2 年目以降は入学金を除く額を納付。 ・左記以外に、大学が代理徴収する学生健康保険互助組合費、研究会費等 (3,350 円～13,350 円/年) を併せて納付。 ・その他には、在籍基本料、施設設備費、実験実習費が含まれる。
経済学部		990,000 円	200,000 円	310,000 円	
法学部		990,000 円	200,000 円	310,000 円	
商学部		990,000 円	200,000 円	310,000 円	
医学部		3,040,000 円	200,000 円	710,000 円	
理工学部		1,440,000 円	200,000 円	450,000 円	
総合政策学部		1,170,000 円	200,000 円	400,000 円	
環境情報学部		1,170,000 円	200,000 円	400,000 円	
看護医療学部		1,170,000 円	200,000 円	710,000 円	
薬学部	薬学科	1,910,000 円	200,000 円	650,000 円	
	薬科学科	1,600,000 円	200,000 円	650,000 円	

(通信教育課程) <https://www.tsushin.keio.ac.jp/admissions/tuition.html>

＜文学部・経済学部・法学部共通＞

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
文学部		140,000 円～	30,000 円	15,000 円～ 30,000 円	・左記金額は初年度納付額。入学2年目以降は入学金を除く額を納付。 ・授業料部分は、授業料140,000 円とスクーリング受講料 (学生により納入額が異なる。メディア授業を含む。) 6,000 円～ (履修単位数等により異なる) で表記。 ・その他は、在籍基本料を指す。
経済学部		140,000 円～	30,000 円	15,000 円～ 30,000 円	
法学部		140,000 円～	30,000 円	15,000 円～ 30,000 円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 学習に係る支援については、各学部・研究科の学習指導担当教員および学部担当職員が責任をもってこれにあたり、直接学生の相談に乗り、アドバイスを与え、留年者や休・退学者・成績不振者の状況把握とそれに基づく対応を行っている。 経済的な支援については、大学独自の奨学金を80種類以上設置し、学生からの多様な経済的ニーズに答えている。大学独自の奨学金は全て返済の必要のない給付奨学金であり、卒業後の経済的負担を心配することなく勉学に励むことを可能にしている。また、学生寮の充実を図り地方や海外の学生が入学し易い環境を整えている。その中でも国際学生寮では留学生との交流を通じて高い国際性を身につけることも期待できる。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) 個別相談、就職イベント (セミナー)、求人・就活関連情報提供により支援している。 個別相談については原則として事前予約制とし、進路に関する相談全般、模擬面接、応募書類へのアドバイスが大まかなサービス内容となっている。 就職イベント (セミナー) については、主に民間・公務への就職希望者を対象として、就職活動に関する総論、具体的な選考対策等の各論、外国人留学生・障害のある学生向けといった属性など幅広いテーマにて、全キャンパス合わせて年間100回程度行っている。 求人・就活関連情報については、様々な企業・団体から届く求人票、就職・キャリア関連イベント、インターンシップ、資格試験等の情報を提供している。また、OB・OG訪問のための卒業生検索システムや、就職活動を終えた先輩学生より寄せられた就職活動体験記を閲覧できるシステムを整備している。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 心身の健康に対しては、各地区に、医師・保健師が常在する保健管理センター、臨床心理士または公認心理師の資格を有するカウンセラーが常在する相談窓口 (日吉・三田・矢上・芝共立では「学生相談室」、信濃町では「ストレス・マネジメント室」、湘南藤沢では「心身ウェルネスセンター」) を設置している。学生相談室では、学生生活上の諸問題に関する相談に応じ、カウンセリングを通して健全な心身の発達と学生生活の向上を図ることを目的に、対面、電話、オンラインでの個別相談およびグループワーク等による支援を行っている。生活支援や生活指導に関しては、「学生教育研究災害傷害保険」に加入し、正課・課外活動中の事故等へ対応するとともに、飲酒事故・薬物使用・各種トラブル防止のため、外部講師を招いたセミナー開催、リーフレット配布、ガイダンス、e-learning科目等により啓発を行っている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：慶應義塾 web「教育」、「研究」ページにて公表している。

「教育」<https://www.keio.ac.jp/ja/academics/>

「研究」<https://www.keio.ac.jp/ja/research/>

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格 A 4 とする。

（任意記載事項）総合知を育成するための学生の学びの充実に向けた取り組み

総合政策学部、環境情報学部においては、予測困難な時代に対応しうる、「未来を創造する先導者」を養成することをその理念に掲げており、文理融合的な2つの学部を横断しながら、アクティブラーニングを中心とした実践的な学修を行うことによって実社会が抱える問題を発見し、課題を解決するための論理的な思考力を身につけ、学際的・領域横断的な視点を涵養することを目的としている。

以上